きらっと いきいき あったかい
高知家の教育

これからの県立高等学校の在り方に関する報告

令和６年 10 月

県立高等学校の在り方検討委員会

＜　目　　次　＞

１　県立高等学校再編振興計画（平成 26 年 10 月策定）の概要と取組 1
２　これからの県立高等学校の在り方の検討について 2
３　県立高等学校の現状と課題 3
（１）入学者数の現状と将来推計 3
（２）学校規模の現状（全日制） 3
（３）学科の配置等の現状 4
（４）多様な学習ニーズの顕在化 4
（５）ＩＣＴ活用による中山間地域の教育の充実 5
（６）学校と地域の連携・協働の前進 5
４　これからの県立高等学校の在り方について 6
（１）学校の適正規模 6
（２）学校の最低規模 6
（３）学校の適切配置 8
（４）学校の魅力化・特色化 10
（５）地域別・課程別の高等学校の在り方 12
（６）今後の高等学校の在り方 14
（７）入試制度の在り方 16
５　おわりに 17
用語解説 18
資料 20

１　県立高等学校再編振興計画（平成26年10月策定）の概要と取組

社会のグローバル化や情報化の進展、産業構造の変化や雇用形態の多様化が全国的に進む中で、本県においては全国に先行して人口減少が進み、南海トラフ地震の発生も見込まれている。こうした厳しい社会環境のもとで、引き続き高等学校教育の充実と、安心して学べる教育環境の整備に取り組むため、平成26年度から令和５年度までの10年間の県立高等学校の在り方と方向性を示した「県立高等学校再編振興計画」(以下「現計画」という。）を平成26年10月に策定した。

現計画では、「キャリア教育※1 の充実」、「生徒や保護者の期待に応える教育活動の推進」、「生徒数の減少に対応するための学校規模の維持と適切な配置」、「南海トラフ地震への対応」、「次代を担う人材を育てる教育環境の整備」の視点を基本とし、県立高等学校の統合や移転、中山間地域の高等学校の教育の充実に向けての取組などを実行してきた。

県立高等学校再編振興計画の主な取組

（１）前期実施計画(H26～H30)

①改編等

・高知東工業高等学校　理工学科　募集停止（H26）
・城山高等学校と高岡高等学校（全日制）を学年制から単位制へ（H29）
・大方高等学校の多部制単位制※2昼間部を全日制(単位制)へ（H29）
・須崎工業高等学校の工業４科を工業３科６専攻へ（H29）
・須崎高等学校（全日制）の総合学科を普通科へ（H29）
・安芸桜ケ丘高等学校　環境エネルギー科　募集停止（H30）
・高知北高等学校　衛生看護科　閉科（H30）

②統合（少子化・南海トラフ地震への対応等）

・須崎工業高等学校と須崎高等学校との統合（H31.4統合完了）
・高知南中学・高等学校と高知西高等学校との統合（R5.4統合完了）

（２）後期実施計画(H31～Ｒ５)

①ＩＣＴの活用による中山間地域等の高等学校の教育の充実

・遠隔授業開始（Ｒ２～）R2：10校14講座　→　R5:16校のべ34講座
・遠隔教育※3システムによるキャリア教育講演会（R2:１回57人→R5:３回のべ347人）

②少子化・南海トラフ地震への対応等

・安芸中学・高等学校と安芸桜ケ丘高等学校との統合（R5.4統合完了）
・清水高等学校を清水中学校隣接地の高台へ移転　(R6予定)

③学科改編

・山田高等学校（全日制）　グローバル探究科を新設、商業科をビジネス探究科へ（R2）
・安芸桜ケ丘高等学校　環境建設科を機械土木科、情報ビジネス科をビジネス科へ（R4）

（３）前期・後期実施計画の共通項目

・本校の最低規模の特例校（１学年１学級20人以上）の設定
　過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校：
　　室戸高校、嶺北高校、佐川高校、窪川高校、檮原高校、四万十高校、清水高校
　不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校:
　　中芸高校、城山高校、高岡高校、大方高校
・中山間地域の学校の設定
　前期：室戸高校、嶺北高校、佐川高校、窪川高校、檮原高校、四万十高校、清水高校
　後期から追加：中芸高校、高知追手前高校吾北分校、中村高校西土佐分校
・海外研修：グローバル教育の取組としての海外留学や海外研修

２　これからの県立高等学校の在り方の検討について

現代は、厳しい社会環境や新型コロナウイルスといった新しい感染症への対応、デジタル化、グリーン化、グローバル化の進展など、変化の激しい予測困難な時代となっている。令和３年１月、中央教育審議会※4の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」と題した答申では、これからの高等学校教育には、社会的自立や主体的に社会参画できる資質・能力の育成、地域や関係機関との連携･協働による地域課題解決に向けた学びの構築、多様な生徒一人一人に応じた探究的な学びやＳＴＥＡＭ教育※5など教科等横断的な学びの構築とともに、高等学校のさらなる魅力化・特色化を進める改革が求められている。

本県においては、人口減少や少子高齢化に歯止めがかからず、とくに中山間地域を取り巻く環境は年々厳しさを増している。県は、令和６年３月、「高知県中山間地域再興ビジョン」を策定し、中山間地域の課題解決や活性化を図る取組を進めることとしており、中山間地域に位置された高等学校の役割も重要となっている。

県立高等学校においては、平成26年度からの10年間で中学校卒業者数が約1,100人減少していることから、小規模校化が一段と進むとともに、今後も生徒数の減少が続くことが想定されている。中山間地域に限らず、高等学校は教育の場であるとともに、地域振興を牽引していく役割が期待されており、これからの社会状況に適応した高等学校の在るべき姿を考えていく必要がある。

県立高等学校の在り方検討委員会（以下「検討委員会」という。）では、本県の高等学校を取り巻く厳しい社会環境の変化に対応するため、高等学校再編振興計画の取組状況を踏まえた「これからの県立高等学校の在り方」について、各高等学校は、子どもたちの視点に立ち、生徒・保護者が行きたい、行かせたい学校となるため、魅力化・特色化に取り組むべきこと、学校の魅力化・特色化のためには、市町村、小中学校、大学、企業、関係機関等とつながり、連携・協働を進めるべきことを前提とし、

〇学校の適正規模と適切配置
〇課程・学科の適切配置
〇学校の魅力化・特色化
〇入試制度の在り方

の４つのポイントを中心に検討を行った。

また、学校が担う役割や地域の特性を考慮し、高等学校を地域別・課程別に、次の６つのカテゴリに分けて検討した。

①　高知市・南国市の学校（11校）
②　進学拠点校（７校）
③　中山間地域の学校（10校）
④　産業系専門高校（７校）
⑤　①から④以外の学校（４校）
⑥　定時制・通信制の学校（12校）

この報告書は、これまでの検討結果をとりまとめたものである。

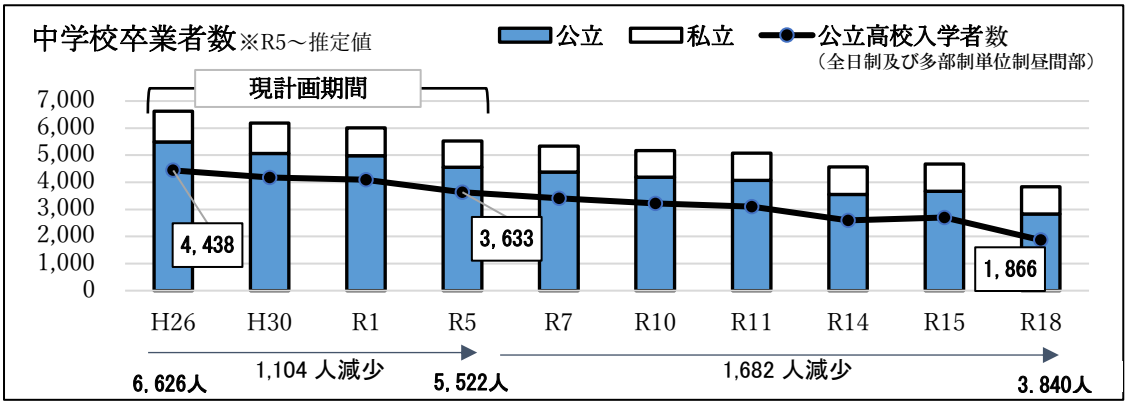
３　県立高等学校の現状と課題

（１）入学者数の現状と将来推計

県内の中学校卒業者数は、平成26年度の6,626人と比べると、令和５年度には5,522人、令和18年度では3,840人へと急速に減少する見込みとなっている。

折れ線グラフで示された公立高等学校（全日制及び多部制単位制昼間部）への入学者数も、平成26年度の4,438人と比べると、令和５年度では3,633人、令和18年度には、1,866人にまで減少する見込みとなっている。

また、県立高等学校（全日制）の入学定員充足率は、平成26年度は78.6%であったが、令和５年度では68.8%にまで下がっている。



【県立高等学校（全日制）の入学定員充足率】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
入学定員（人）	5,130	5,130	5,130	5,090	5,050	5,050	5,050	4,810	4,810	4,810
高校１年生徒数（人）＊基準日5月1日	4,030	3,984	4,012	4,025	3,813	3,721	3,556	3,384	3,402	3,308
充足率（%）	**78.6**	**77.7**	**78.2**	**79.1**	**75.5**	**73.7**	**70.4**	**70.4**	**70.7**	**68.8**

（２）学校規模の現状（全日制）

現計画では、県立高等学校の再編・統合、学科改編等を実施し、１校あたりの入学定員による平均学級数は、平成26年度と同じ3.9となっている。ただし、１学級あたりの生徒数は減少してきており、中学校卒業者数が今後減少していく中で、現在の学校・学科の配置を維持するとすれば、さらに小規模校化が進むことになる。

【入学定員による学級数別学校数】

学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	学校数	１校あたりの平均学級数
平成26年度	2	10	2	8	3	3	4	1	33	3.9
令和５年度	2	11	1	5	4	3	4	1	31	3.9

※分校を１校として集計している。

（３）学科の配置等の現状

令和５年度の学科等別学校数の状況は、次のようになっている。

また、本県の公立の全日制高等学校の各学科の生徒数の割合は、普通科が49.5％（全国は65.5％）、総合学科が11.8％（全国は7.4％）、産業系専門学科が35.0％（全国は22.6％）、その他の専門学科が3.7％（全国は4.6％）となっている。

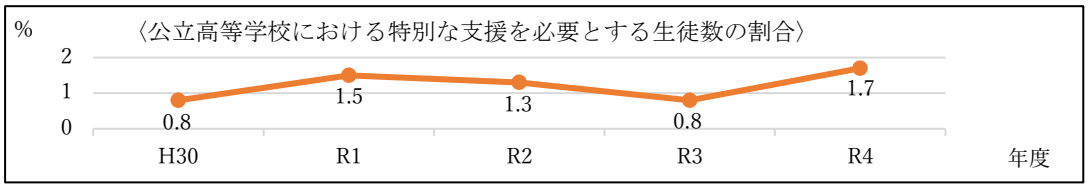
【学科等別学校数（県立）】

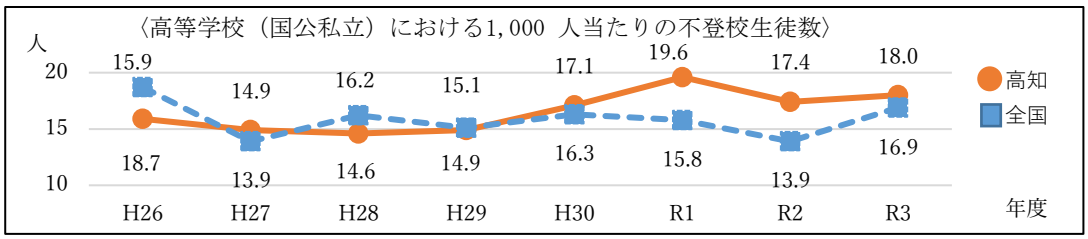
課　　程	学　　科		東部	北部･中部	高吾	幡多	合計
全日制・多部制単位制（昼間部）	普通科		1	10	5	4	20
	産業系専門学科	農業科		1		1	
		工業科	1	2	1	1	
		商業科	1	2			
		水産科		1			
		看護科		1			12
	上記以外の専門科			4			4
	総合学科		1	2		1	4
定時制・多部制単位制（夜間部）	普通科		2	3	2	3	
	産業系専門学科	工業科		2			12
通信制	普通科			1		1	2

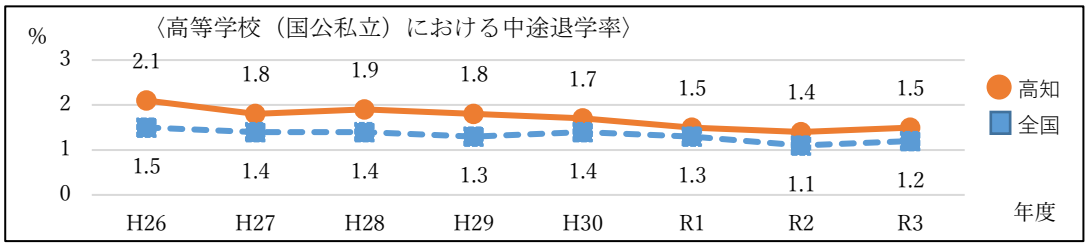
※下記の学校は、普通科と産業系専門学科を併置している。
安芸高等学校（普通科１、工業科１、商業科１）、山田高等学校（普通科１、商業科１、産業系専門学科以外の学科１）、須崎総合高等学校（普通科１、工業科３）

（４）多様な学習ニーズの顕在化

特別な支援を必要とする生徒数の割合は、令和４年度で最も高くなっている。また、1,000 人当たりの不登校生徒数・中途退学者の割合は、年度にとって増減はあるものの全国平均より高い状況にある。現計画では、中芸高等学校、高知北高等学校、城山高等学校、高岡高等学校及び大方高等学校を不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等にも、柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校として位置付けている。







（５）ＩＣＴ活用による中山間地域の教育の充実

現計画の後期実施計画において、オンデマンド教材※6の活用と遠隔教育が実施されている。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う一斉休業にあわせて、自由な時間に視聴できるオンデマンド教材の作成及び活用が行われた。また、ＧＩＧＡスクール構想※7による１人１台タブレット端末の整備が完了し、デジタルノートやデジタルドリルの活用も行われるようになった。ＩＣＴ機器の整備が進むとともに、授業や家庭学習でのＩＣＴを活用した個別学習プログラムの研究が進んだ。

遠隔教育については、令和２年度から教育センター内に設置された遠隔授業配信センターにおいて、配信拠点型遠隔授業が始まった。単位認定を伴う遠隔授業に加え、大学進学対策補習、グループワーク型受験対策補習、公務員試験対策補習、英検２次対策補習等も行われている。また、県立学校を対象に、生徒が10年後をイメージできるよう、県出身者等、本県にゆかりのある方を中心に講師に招き、放課後にキャリア教育講演会なども実施されている。

【遠隔授業の実施状況】

令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
10校14講座	11校のべ20講座	14校のべ23講座	16校のべ34講座

【キャリア教育講演会の実施状況】

令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
年１回57人	年４回のべ229人	年３回のべ169人	年３回のべ347人

（６）学校と地域の連携・協働の前進

県外からの生徒募集を紹介する仕組みの一つである「地域みらい留学※8」は、平成30年度に嶺北高等学校が参加したことを皮切りに参加校が増加している。中山間地域等の少人数の中学校から進学してきた生徒が、様々な地域や環境から入学してきた生徒と交流し、多様な価値観に触れることにより、生徒の社会性等を育むことにもつながっている。

また、入学する生徒は、当該地域が生活の本拠地となるため、高等学校と地元市町村とが連携して、地域の受入れ体制や支援体制を整えている。令和６年度には、県外からの入学生徒を受け入れる取組をさらに充実させるため、「こうち留学」と銘打った生徒募集が開始されている。

【県外生徒の入学者数等】

	平成31年度	令和６年度
身元引受人制度※9利用	８校15人	13校49人
（地域みらい留学利用）	（１校６人）	（６校19人）

※地域みらい留学利用の入学者数等は、身元引受人制度利用の内数を示している。

現計画期間中において、高等学校と地元市町村や地域とが連携した特色ある部活動

や探究的な教育活動などが行われている。部活動では、室戸高等学校の女子野球部、嶺北高等学校や中村高等学校西土佐分校のカヌー部、檮原高等学校の男子野球部、大方高等学校の女子サッカー部などは地元市町村と連携をしながら進められている。探究的な教育活動では、室戸高等学校の「ジオパーク学」、中芸高等学校の「中芸学」、四万十高等学校の「四万十探究」など、地域資源を生かし、地域と連携・協働した取組が進められている。

４　これからの県立高等学校の在り方について

（１）学校の適正規模

〇現計画における考え方

生徒の個性や進路希望などの多様化に対応し、習熟度別の学習指導や、総合選択制※10を取り入れた教育課程※11の編成など、きめ細かい指導ができる体制を確保するためには、１学年４学級以上（上限８学級）の学校規模が必要である。

また、一定の生徒数の確保が見込まれる高知市及びその周辺地域の学校では、生徒の個性・能力や進路希望等に対応した多様な教育課程の編成が可能であり、特別活動や部活動においても切磋琢磨し、より活気あふれる学校づくりができる１学年６学級以上の学校維持に努める必要がある。

〇検討委員会における考え方

現状では、現計画における適正規模の基準に満たない学校が複数あり、今後の生徒数の減少を踏まえると、さらに適正規模に満たない学校も増えてくることが想定される。

タブレット端末や遠隔教育などのＩＣＴを活用した学びの導入などにより、学校間での交流や教育活動が行われていることを踏まえると、適正規模の基準は設ける必要はないと考える。県内一律で考えるのではなく、子どもたちの学びのニーズや、それぞれの地域の状況に応じた学校規模にしていくべきと考える。

（２）学校の最低規模

ア　全日制

〇現計画における考え方

本校においては、高等学校としての教育の質を確保するためには、生徒の多様な学習ニーズに応え、集団活動による社会性の育成を図ることが大切であることから、１学年２学級以上が必要である。

ただし、過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校、不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟な対応をするための支援体制を整えた学校及び分校においては、特例として１学年１学級以上を最低規模として維持する。

なお、１学年１学級とする場合においても、高等学校としての教育の質を維持していくための集団として、少なくとも１学級20人以上が必要である。

〇検討委員会における考え方

現状では、現計画における最低規模の基準を満たしていない学校が複数存在する状況にある。

小規模校では、遠隔授業やＩＣＴの活用などによって、他校の生徒や地域とともに協働的な学びができる環境がつくられてきており、平成 26 年の現計画策定時の教育環境とは異なってきていることから、最低規模は設定しなくてもよいのではないかと考える。

しかし、集団生活における社会性の育成や協働的な学びを実現するためには一定の生徒数が必要であり、当面は、本校は１学年１学級 20 人以上、分校は１学年１学級 10 人以上という数値を目安として残し、地域と一体となって教育の質を維持するための環境づくりに取り組む必要がある。

今後、数年に渡って、目安とする生徒数を維持できない状況が続いた場合には、教育の質を維持するための環境づくりや、当該高等学校の在り方について、地域や市町村と協議する必要がある。

イ　定時制

〇現計画における考え方

働きながら学ぶことや学び直しなど、多様な学習ニーズのある生徒に柔軟に対応した支援ができ、多様な学びを保障する役割を持つ定時制については、多部制単位制（昼間部）は１学年１学級20人以上、定時制（夜間部）は、学校全体の生徒数20人以上を最低規模とする。

〇検討委員会における考え方

現状では、多くの学校で現計画における最低規模の基準を大きく下回る状況にあるが、働きながら学ぶことや学び直しなど、多様な学習ニーズのある生徒に柔軟に対応することができる定時制の高等学校は、最低規模を必ずしも設定しなくてもよいのではないかと考える。

しかし、学校を維持していくため、昼間部は１学年１学級20人以上、夜間部は学校全体の生徒数20人以上という数値を目安として残し、目安とする生徒数を維持できない場合には、ＩＣＴ化が進んでいる状況を踏まえ、通信制高校のサテライト校※12化など、定時制の在り方について積極的に見直しを図っていくことが必要である。

（３）学校の適切配置

ア　全日制（普通科）

〇現計画における考え方

卒業後の多様な進路選択の保障と地域を担う人材の育成という観点から、県全体のバランスを考慮した適切な配置に努め、併せて難関大学や医学部等への進学も実現できる進学拠点校についても、県全体のバランスも考慮しながら配置する。連携型中高一貫教育校※13については、地域の学校の状況等も踏まえながら、現在設置されていない地域への配置も検討する。併設型中高一貫教育校※14については、現状の東部、中央部、西部の３地域での配置を維持する。

〇検討委員会における考え方

現状では、ほとんどの生徒が自宅から通学できる範囲に普通科の高等学校が配置されており、それぞれの地域で学びの場が確保されている。しかし、今後、生徒数が大きく減少し、それぞれの学校がさらに小規模校化することも想定されるため、将来的には、地域別に普通科の学校配置の検討が必要になるものと考える。

＜連携型中高一貫教育校＞

地域の学校の状況等も踏まえながら、現在設置されていない地域への配置を引き続き検討する。

＜併設型中高一貫教育校＞

現状の東部、中央部、西部の３地域での配置を引き続き維持する。

イ　全日制（産業系専門学科）

〇現計画における考え方

本県の産業を担う人材の育成及び産業振興のため、現状の学校の配置の維持に努める。ただし、生徒数の減少等により、現在の配置が維持できない場合には、他の高等学校との統合による複数学科の併置も含め、県全体のバランスを考えた計画的な改編を実施する。また、コースにおいては、各校の活性化と教育内容の充実、適切な定員管理の実施に向けて、入学者数の状況や生徒のニーズ、産業構造の変化や就業形態の多様化などの社会環境の変化も見据えたうえで、随時、設置科やコースについての見直しを進める。

〇検討委員会における考え方

本県の産業を担う人材の育成及び産業振興のために、高度な学びを受けることができるよう学校の設備を充実させるなど、教育環境を整えていくことは重要である。

今後、生徒数が大きく減少し、それぞれの学校がさらに小規模校化することを考えると、産業系の学科についても地域別・学科別に学校・学科の再編・統合の検討が必要になるのではないかと考える。

また、学科については、社会や時代のニーズに合う学科となるよう、一定先を見通した在り方の検討を進めていくべきである。

ウ　全日制（総合学科）

○現計画における考え方

生徒が興味関心に応じて系列を選択することで多様な進路希望に対応できるという特色を生かすために、現在の各地域での配置を維持することに努める。ただし、生徒数の減少等により、学校によって複数の系列を置くことが困難な場合には、生徒数や地域の状況も踏まえつつ必要に応じて普通科への改編も検討する。

○検討委員会における考え方

生徒の多様な選択を可能とする総合学科の学びは、学校の魅力化・特色化につながるため、当面は、普通科への改編は検討しなくてもよいのではないかと考える。

今後、さらに生徒数が大きく減少し、それぞれの学校がさらに小規模校化することを考えると、県全体としてのバランスを考慮した総合学科の学校配置の検討が必要になるのではないかと考える。

エ　定時制

○現計画における考え方

働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴の生徒に柔軟に対応するため、各地域での配置の維持に努める。ただし、生徒数の減少に伴い統廃合を検討する場合は、学校の役割や地域の実態、学科の内容、通学手段なども考慮した配置を検討する。多部制単位制は、生徒数の減少によって多部制の機能を十分に果たせない状況になった場合は、その在り方について見直しを検討する。

○検討委員会における考え方

定時制は、通信制高校のサテライト校化など、ＩＣＴを活用して、各地域で生徒のニーズに対応した多様な学びを保障することができるのであれば、必ずしも現在の配置の維持に努める必要はないのではないかと考える。また、より多様な生徒に対応するため、三部制※15の導入も検討すべきではないかと考える。

今後、さらなる生徒数の減少等に伴い統廃合を検討する場合には、現計画と同様に学校の役割や地域の実態、通学手段なども考慮していく必要がある。

オ　通信制

○現計画における考え方

生徒のニーズに対応するため、現在の中央部と西部の２校の配置を維持するとともに、東部の生徒のニーズに対応するために通信制と定時制の併修の在り方を検討する。

○検討委員会における考え方

通信制は、スクーリング※16の会場を広げることも検討するべきではないかと考え

る。その場合、必ずしも現在の配置の維持に努める必要はないのではないかと考える。

カ　多様な生徒が学ぶことができる機会の保障

多様な生徒が学ぶことのできる環境が必要であり、日本語を母語としない子どもが増えているため、高等学校での受入れや支援体制について検討する必要がある。

（４）学校の魅力化・特色化

ア　共通

高等学校の魅力化・特色化においては、教育の中身が重要であり、教員が魅力ある授業を行うことが最も大切である。そのためには、教員がやりがいを持ち、楽しくいきいきと教育に携わることや教員の指導力向上が必要である。

加えて、高等学校と市町村や小中学校、地域等との協働が重要であり、高等学校だけではなく、関係機関等とつながりをもちながら高等学校の魅力化・特色化に取り組むべきである。

また、進学後の高校生活をイメージできることが進学意欲に繋がることもあるため、広報が重要であり、各校の特色がわかる動画やホームページの作成などを専門家に依頼し充実させていくことも必要と考える。

それぞれ学校の特色を明確にしたうえで、ブランディング・広報し、小中学生や保護者、地域等に地元の県立高等学校の魅力を認識してもらう必要がある。

地域みらい留学を活用する県外からの入学生徒を増やすためにも、高等学校や地域での受入れ体制をより充実させるとともに、各校の特色を県外等にも発信できるように、充実した広報活動を行うべきである。

また、日本の教育を受けて、日本人と同じ感覚で考え、対応ができる人材を地域で増やしていくことは重要であるため、日本語を母語としない子どもへの支援体制を検討する必要がある。

イ　全日制（普通科）

生徒数の確保が一定見込まれる高知市やその周辺地域では、生徒の個性、進路希望等において、多様な教育課程の編成が可能であり、団体の部活動も複数置くことができ、より活気があふれる学校づくりができる。一定の学校規模があることが魅力化・特色化に繋がっている。

一方で、中山間地域の学校は、生徒数が少ないことで一人一人の活躍の場が増え、個々の生徒に行き届いた支援ができるなどのメリットがある。中山間地域の学校では、学校の枠組みだけで教育活動を行っていくのではなく、地元市町村や小中学校、地域と連携・協働した取組を行い、学校の特色化を図ることが必要である。普通科がより魅力的になるように地域の資源を生かし、地域とのつながりをもった教育活動や普通科改革※17を行うことも必要と考える。

県中央部にある進学拠点校とそれ以外の進学拠点校は、学校の性質上でみると違いがあるため、一括りにすることなく、新たなカテゴリ分けを検討してもよいのではないかと考える。また、進学拠点校以外の高等学校で難関大学等に進学したい生徒がいる場合は、遠隔教育や、進学拠点校とオンライン等でつなぎ、自分の選択したい科目や進学対策のような授業が受けられる学びの方法の検討を行う必要がある。

ウ　全日制（産業系専門学科）

地元企業と連携して産業界の最新の状況を捉えつつ、ＩＣＴの活用やＤＸ化※18を推し進めるなどの高度化された最新の産業にあった学び、企業が必要としている人材の育成ができる教育内容に変えていく必要がある。

また、小中学校と連携し、義務教育段階から地元産業に興味関心を持ってもらう取組が重要である。産業系専門学科のある学校は小中学校とカリキュラム※19的に結びつき、キャリア教育の部分での連携を検討していくべきである。

また、本県は森林県であり、県内には林業大学校もある。そうした学校との連携や林業社会が求める人材を育成することのできる仕組みについて検討する必要がある。

水産に関する学科については、本県の産業を維持するためにも、学校規模だけでなく、別の視点から振興や魅力化を考えていくことが必要である。

エ　全日制（総合学科）

生徒の興味関心に応じて、普通科と専門学科のどちらの学びにも対応できる総合学科の特色が、中学生や保護者に伝わっていない状況がある。

また、系列名を見ても、どのようなことをその学校で学ぶことができるのか分からないため、教育内容が明確に分かるよう系列名の変更や系列のスリム化を検討していく必要がある。

室　戸：文理総合、商工業・芸術、生活福祉
高知東：Advanced（文系）、Advanced（理系）、Business Skill（情報系）
Global Communication Skill（国際教養）、Social Skill文系（保育理美容調理福祉）
Social Skill理系（医療看護）、Flexible Future（幅広い進路に対応）
春　野：園芸、食農、生活クリエイト、人文
宿　毛：人文・自然、教養、保育・福祉、商業、芸術・スポーツ

オ　定時制・通信制

○　共通

ＩＣＴを活用し、定時制と通信制を組み合わせ、多様な学びを提供できる環境づくりに努める必要がある。

また、定時制や通信制の名称を変更するなどして、セーフティネット※20という従来のネガティブなイメージから、例えば、「インターネットハイスクール」のような先進的でポジティブなイメージに変え、広報していくことで魅力化・特色化に繋げ

ることができるのではないかと考える。

○　通信制

多様な学びを求めている子どもたちに、融通性の高い学びを提供していくことや、子どもたちの学びのアクセスを途切れさせない通信制の在り方を検討していく必要があると考える。

その際には、ＩＣＴを積極的に活用した通信教育を取り入れ、新しい先進的な学校にしていくことが必要であると考える。

（５）地域別・課程別の高等学校の在り方

①　高知市・南国市の学校（11校）

岡豊、高知東、高知追手前、高知丸の内、高知小津、高知国際、春野
（高知農業、高知東工業、高知工業、高知北）

※（　　）は他の区分と重複

高知市・南国市は人口が多く、生徒数も多い地域である。また、他の地域からの通学してくる生徒も多く、令和５年度の県立高等学校の全日制の全生徒数のうち、63.8%が高知市・南国市の高等学校に集まっている。

一定規模のある高等学校は、生徒の進路希望に合わせた柔軟な教科・科目の設定が可能であるため、多様な進路に対応することのできる教育環境を整えることができる。また、部活動においても、生徒数が必要な団体部活動を複数置くことも可能である。そのため、学校規模も一つの魅力・特色と捉えることができ、高知市や南国市などの生徒が集中している全日制高等学校においては、一定規模（基本４学級以上、可能であれば６学級）の維持に努めるべきものと考える。

②　進学拠点校（７校）

安芸、山田、須崎総合、中村
（高知追手前、高知小津、高知国際）

※（　）は他の区分と重複

進学に重点を置く進学拠点校では、進学希望者の様々なニーズに対応するため、各教科に専門科目の設置が必要であり、一定規模の維持に努める必要がある。

県中央部にある進学拠点校においては、可能であれば６学級規模、地域の拠点校となる学校においても、少なくとも４学級以上の学校規模の維持に努める必要があるのではないかと考えられる。

現計画で進学拠点校とされる７校については、中学校を併設している学校、複数学科を併設している学校など特色が違っていることや、進学状況も異なっていることから、一律に進学拠点校とせず、拠点校としての位置付けについては整理していく必要があると考える。

③　中山間地域の学校（10校）

室戸、嶺北、吾北分校、佐川、窪川、檮原、四万十、西土佐分校、清水（中芸）

※（　）は他の区分と重複

現計画では、分校を含めた10校を過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校としてきた。中山間地域の学校は、地域の核となるものであり、高等学校の存在は地域にとっても重要である。

しかし、集団生活における社会性の育成や協働的な学びの実現のためには、一定の生徒数が必要であり、本校は１学年１学級20人以上、分校は１学年１学級10人以上という数値を目安として残し、地域と一体となって教育の質を維持するための環境を整える必要がある。

今後、地域や市町村等と連携しながら魅力化を図り、生徒数の確保に取り組むことが必要である。また、遠隔授業については、中学生や保護者はその取組を十分には知らないため、体験入学や学校説明会等では具体的な説明や体験の機会を設けることも必要である。そうした取組を行ったとしても、数年に渡って目安とする生徒数を維持できない状況が続いた場合には、これからの高等学校の在り方について、統合等の可能性も含めた検討を行う必要があるのではないかと考える。

このことについては、あらかじめ学校や地域等に示したうえで、地域と連携・協働して学校規模の維持に努めていく必要がある。

④　産業系専門高校（７校）

伊野商業、高知海洋、幡多農業、宿毛工業

（高知農業、高知東工業、高知工業）

※（　）は他の区分と重複

それぞれの地域において、産業系の専門の学びが担保できることが重要である。

しかし、現状では、入学定員を充足している学科もある一方、入学定員の半分に満たない学科も存在している。今後の生徒数の減少を踏まえると、学科の改編や統合などに取り組むことは、必要となるのではないかと考える。

また、学校規模は設備等の予算にも関わるため、一定の学校規模をバランスよく保つことが必要であると考えられる。

そのため、これから入学する生徒にとって、よりよい教育環境を保障するための再編・統合、学科改編を含めた高等学校の在り方の検討が今後必要となる。

また、安芸高等学校や須崎総合高等学校のように、普通科と産業系専門学科を統合し、学校規模を維持したうえで、地域に産業教育を残せることはよい事例であるため、そのような統合も将来的には検討してもよいのではないかと考える。

⑤　①から④以外の学校（４校）

城山、高岡、大方、宿毛

宿毛高等学校は、総合学科で多様な進路に対応できる学校であり、城山高等学校、高岡高等学校、大方高等学校は、現計画において、不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制等を整えた学校として位置付けられている。

特別な支援を必要とする生徒は、本県でも増加傾向にあり、この４校に限らず特別な支援を必要とする子どもに手厚い支援ができる学校が、今後さらに必要になるのではないかと考える。生徒の多様なニーズに対応した体制を整えていく必要がある。

これらの４校については、地域の学校でもあり、県全体で、学校の配置等を検討していく必要がある。

⑥　定時制・通信制の学校（12校）

室戸、中芸、山田、高知東工業、高知工業、高知北、高岡、須崎総合、佐川、大方、宿毛、清水

現状、定時制の多くの学校で、現計画における最低規模の基準を大きく下回る状況にある。ＩＣＴによる学びも普及してきており、生徒の教育機会を確保しつつ、通信制高校のサテライト校化や、生徒の多様な学習ニーズに柔軟に対応する三部制の導入などを検討していく必要がある。

定時制・通信制に通うことがネガティブなものはなく、多様な学びのニーズがある生徒が積極的に学べる環境に変えていくことについて検討すべきと考える。

（６）今後の高等学校の在り方

少子化が加速する地域の小規模校における今後の魅力化の在り方については、全国的にも大きな課題となっている。

この検討委員会では、「地域･教育魅力化プラットフォーム」の代表理事 岩本　悠 氏から全国の取組状況や今後の高等学校の在り方についてのご示唆をいただいた。

岩本氏からは、

「学校の魅力化は学校だけで行うのではなく、高校と地元の中学校・自治体・産業界などと繋がっていくこと、また、他の地域の学校等とネットワークを構築していくことが重要である。学校では、地域・社会資源を活用しながら魅力・特色ある教育環境をつくること、越境・交流の活用で、異なる文化・価値観を有する生徒と学びあう機会や異なる環境に身を置く異文化・越境体験を進めること、デジタル・ＩＣＴを活用し、オンライン・遠隔授業等により、多様な科目の提供や専門性の高い指導、習熟度別学習、部活動等の実現を図ること」などの内容であった。

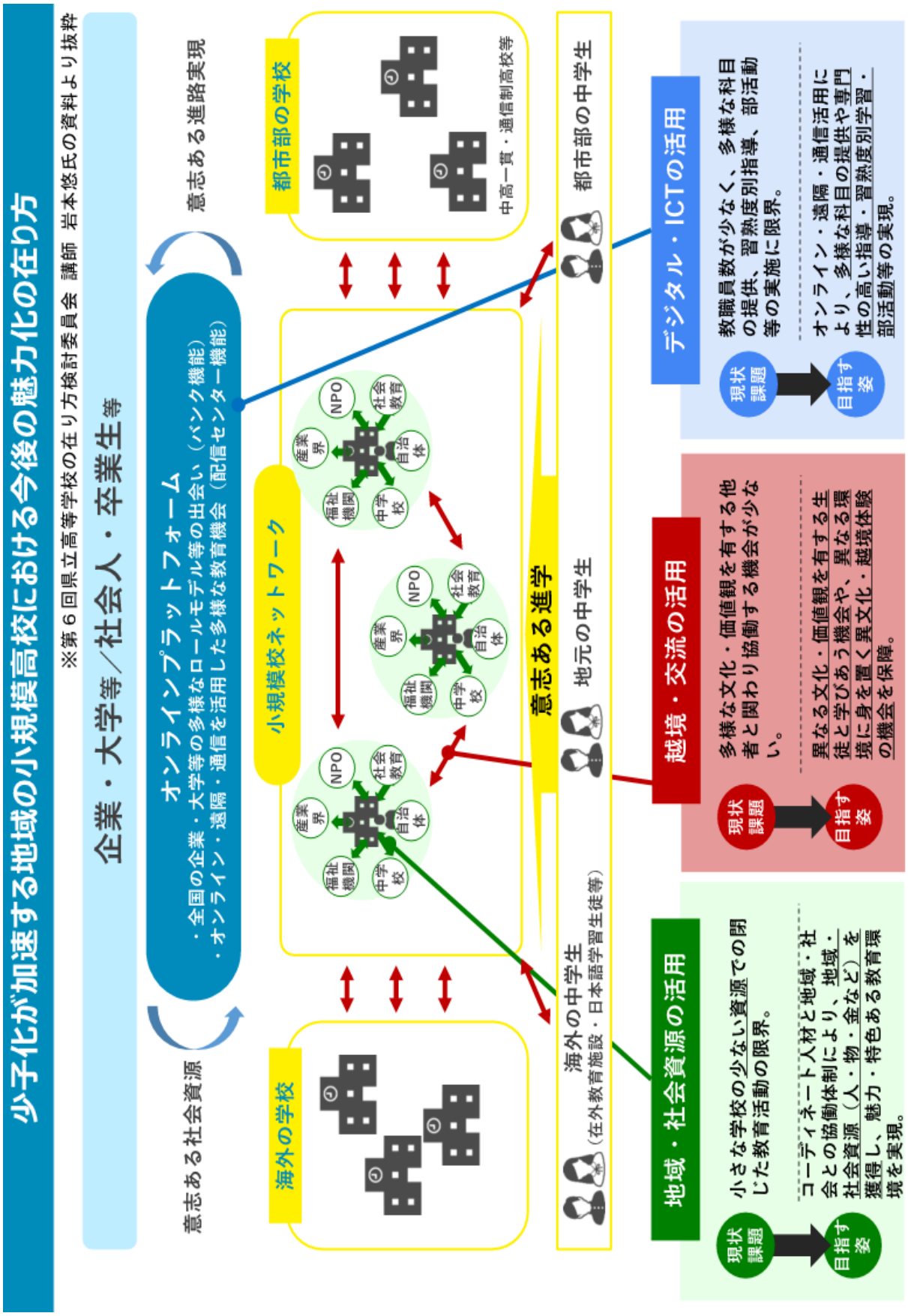
これらのことは、本県の高等学校でも取り入れるべきものであり、これからの高等学校においては、

・地域や社会資源をさらに活用していくこと
・県外や地域外からの生徒の受入れに積極的に取り組むこと
・オンラインや遠隔授業等のＩＣＴの活用等の拡大に取り組むこと
・高等学校同士、地元市町村や小中学校、地域、関係機関等と積極的につながり、ネットワークを構築すること

が必要である。

これらの取組により学校の魅力化・特色化を図ることが重要であると考える。

※（６）今後の高等学校の在り方「参考資料」



（７）入試制度の在り方

ア　学校の魅力化・特色化を踏まえた新たな入試制度の導入について

入試制度の在り方については、社会で求められている力を意識し、高校入試がどうあるべきかを考え、必要に応じて、大きく変えていく必要がある。

なかでも、各高等学校の魅力化・特色化をより一層進めていくうえで、各校の特色を理解した生徒に出願してもらえるよう、各校のスクール・ミッション※21や入学生に求める生徒像等に基づき、例えば、小論文やプレゼンテーション、実技検査等、各校が独自に設定した方法により、生徒の強みや可能性を、これまで以上に多面的・多角的に評価する新たな入試制度を導入することも有効であると考えられる。

新たな入試制度の導入に当たっては、学力検査を併せて課すことや、調査書等を活用し、一定の学力を担保することも高等学校での学習を行ううえでは必要である。また、募集割合については、過去の推薦入試の導入・廃止の経緯等を踏まえ、定員の10～20％程度で設定するなど、50％は超えない範囲で設定されることが望ましい。

なお、各検査やその評価の方法については、公正・公平な判定ができる実施方法及び評価の基準をつくることが大切である。加えて、新たな制度の導入が、教員の単純な業務負担増とならないような実施に当たっての工夫も必要である。

さらに、不登校生徒や日本語を母語としない生徒などに対して、多様な生徒の学びを保障するために、学びやすい学校の体制を整えたうえで、学校の特色に応じた入試制度を設けることも考えられる。

イ　県外生徒の受入れの拡充について

現在も、一家転住を除く県外生徒の受入れについては、特定の学校において、身元引受人制度や地元自治体と連携した地域みらい留学を活用した受入れが行われているが、今後の一層の生徒数減や、地域の生徒たちが新たな人間関係により刺激を受けるといったメリット等を考慮し、各地域の実情や地域・学校の願いなども踏まえたうえで、基本的にはさらに拡充することが望ましい。

また、現制度においては、定員内に県外枠を設定する必要性はないと考えられるが、今後、県内志願者が定員を上回る学校においても県外生徒の受入れを検討する場合には、県外枠の設定についても議論する必要があると考えられる。

ウ　入試の実施時期について

現行の入試制度の日程については、変更した方がよいという意見と、特に変更の必要はないという両方の意見があったが、学校の魅力化・特色化を踏まえた新たな入試制度を導入した場合、現行の入試制度の日程の中で全ての入試を実施することは難しい。また、今後、県外生徒をこれまで以上に積極的に受け入れる場合には、他県の入試日程について考慮する必要がある。

以上の点から、例えば、新たな入試制度を１月末から２月上旬に行うなど、現行の日程から全体的に前倒しを行うことが必要であると考えられる。

その際には、合格発表後の中学校と高等学校の学びが途切れないよう、中高で連携する取組が行われることが望ましい。

５　おわりに

生徒数のさらなる減少が見込まれ、変化の激しい予測困難な時代において、本県の将来を担う人材を育成する高等学校の果たすべき役割は大きい。

そのため、これからの県立高等学校においては、これまで以上に子どもたちの視点を大切にしながら、まずは教員が魅力ある授業を展開し、その上で子どもたちが様々な体験ができるよう、地域や関係機関等と連携・協働を進めていただきたい。併せて、学校の魅力化、特色化を進め、生徒・保護者が行きたい、行かせたい学校となるよう取り組んでほしい。

また、入学定員に関して、現在、実際の入学者数との乖離が大きくなっており、今後も生徒数の減少が見込まれることから、県教育委員会で十分に検討して、必要な措置を講じていただくことを望む。

今後、県教育委員会には、本報告を踏まえ、社会や教育環境の変化を捉えつつ、県立高等学校の今後の在り方に向けた計画を策定し、子どもたちにとって魅力のある県立高等学校づくりを進めていただくことを期待する。

用語解説

（※１）キャリア教育

一人一人の社会性・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実践していくキャリア発達を促す教育。

（※２）多部制単位制

昼間部、夜間部など、特定の時間帯に授業を行う課程を複数置くという多部制の特徴に加え、学年による教育課程の区分を設けず、必要な単位を修得すれば卒業が認められるという単位制の特徴を合わせた定時制課程のこと。

（※３）遠隔教育

離れた場所同士で、インターネット等のメディアを利用して同時双方向による授業等の配信を行うことができる遠隔教育システムを活用した教育のこと。

（※４）中央教育審議会

文部科学大臣の諮問に応じて、教育の振興及び生涯学習の推進を中核とした豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成に関する重要事項等を調査審議し、文部科学大臣等に意見を述べるなどする文部科学省におかれている審議会のこと。

（※５）ＳＴＥＡＭ教育

Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でＡ（Liberal Arts）を定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習のこと。

（※６）オンデマンド教材

インターネットを経由して、映像や音声で構成された講義を視聴したり、テストを受けたりすることで学習できる教材。インターネットに接続できる機材（コンピュータやタブレット、スマートフォンなどの情報機器）があれば、時間や場所を問わず、生徒自身で学習を進めることができる。

（※７）ＧＩＧＡスクール構想

文部科学省において全国の児童・生徒に１人１台のコンピュータおよび高速ネットワークを整備する取組。

（※８）地域みらい留学

一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームが提供する、全国募集を行う公立高等学校を紹介する仕組みのこと。地域みらい留学に参加した学校は、大都市での対面による説明会にブースを構えて参加したり、インターネット上でのオンライン説明会に参加したりするなど、より効果的で積極的な広報活動ができる。

（※９）身元引受人制度

保護者が本県に居住せずとも、親戚など身元引受人となる本県在住者がいれば、県教育委員会（県立高等学校を志願する場合）から入学志願承認を受け、受検することができる制度のこと。

（※10）総合選択制

生徒の希望進路などに応じて､学科の枠を超えて様々な教科･科目を選択して学ぶことが可能な制度。

（※11）教育課程

学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子どもの心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画のこと。なお、編成主体は各学校である。

（※12）サテライト校

高等学校の通信制課程で行う教育において、面接指導や試験等の実施について連携協力を行う通信教育連携協力施設のこと。当該高等学校の分校や協力校（連携協力を行うものとして設置者が定めた高等学校）を通信教育連携協力施設とすることができる。

（※13）連携型中高一貫教育校

市町村立中学校と都道府県立高等学校など異なる設置者が設置する中学校及び高等学校、又は同一の設置者が設置する中学校及び高等学校において、中高一貫教育を行うもの。教育課程については、当該学校の設置者が設置者間の協議に基づき定めるところ(設置者が同一の場合には設置者の定めるところ)により編成することができるとともに、当該中学校及び高等学校は、両者が連携してそれぞれの教育課程を実施する。また、中高一貫教育校として特色ある教育課程を編成することができる。

（※14）併設型中高一貫教育校

同一の設置者が設置する中学校及び高等学校において、中高一貫教育を行うもの。教育課程について

は、中学校の基準及び高等学校の基準をそれぞれ適用するとともに、中高一貫教育校として特色ある教育課程を編成することができる。

（※15）三部制

午前の部、午後の部、夜間の部など、特定の時間帯に授業を行う課程を三部併置する定時制課程のこと。

（※16）スクーリング

通信制課程において、生徒が学校に登校し、面接指導を受けること。

（※17）普通科改革

各高等学校の特色化・魅力化の検討状況に応じて、各設置者の判断により、「普通教育を主とする学科」として、令和４年度から学際的な学びや地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科の設置を可能とした改革のこと。

（※18）ＤＸ化

デジタル技術を活用してサービスや業務、組織などを変革していくこと。

（※19）カリキュラム

教育課程のこと。学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子どもの心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画のこと。なお、編成主体は各学校である。

（※20）セーフティネット

定時制課程や通信制課程などの「多様な学びの場」、「再チャレンジの場」のこと。

（※21）スクール・ミッション

各高等学校における教育活動の特色・魅力を明確にするために、学校設置者が各校の存在意義や教育理念、育成すべき人物像や期待される社会的役割等を明確にしたもの。

資　　料

１　国や高知県全体の方向性 21
２　審議経過 25
３　県立高等学校の在り方検討委員会設置要綱 26
４　県立高等学校の在り方検討委員会委員名簿 27
５　県立高等学校の在り方検討委員会専門部会委員名簿 27
６　県立高等学校の改編等の実施状況 28
７　旧学区別中学校卒業者数の推移 29
８　令和５年度県立高等学校配置図 30
９　令和５年度県立高等学校募集学級数別学校一覧 31
10　令和５年度県立高等学校の学科及びコース一覧 32
11　令和５年度県立高等学校の生徒数（５月１日現在） 33
12　公立高等学校（全日制課程）の学科別（本科）生徒数の比率 35
13　公立高等学校定時制・通信制の状況 36
14　高等学校における進路の状況 37
15　県立高等学校の在り方についてのアンケート結果 39

１　国や高知県全体の方向性

◆　「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（令和３年１月 中央教育審議会答申）

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

◇　個別最適な学び

「指導の個別化」と「学習の個性化」

◇　協働的な学び

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、「協働的な学び」を充実

「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

全ての子供たちの知・徳・体を一体的に育むため、これまで日本型学校教育が果たしてきた、

◇　学習機会と学力の保障

◇　社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障

◇　安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障を学校教育の本質的な役割として重視し、継承

新時代に対応した高等学校教育等の在り方

◇　高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための特色化・魅力化（スクール・ミッション再定義、スクール・ポリシー策定、普通科改革、専門学科改革）

◇　定時制・通信制課程における多様な学習ニーズへの対応と質保証

◇　STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成

◆　高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ（令和５年８月 中央教育審議会初等中等教育分科会）

これからの高等学校の在り方に係る基本的な考え方

高校教育の実態は地域・学校により非常に多様な状況であることを踏まえ、

◇　生徒一人一人の個性や実情に応じて多様な可能性を伸ばす「多様性への対応」

◇　全ての生徒が必要な資質・能力を共通して身に付けられるようにする「共通性の確保」を併せて進めることが必要

少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方

◇　同時双方向型の遠隔授業やオンデマンド型の学習を可能とする通信教育の活用、学校間連携の推進が必要

◇　少子化が加速する地域における高校の在り方を考える上では、生徒の教育条件の改善という視点が大切であり、スクール・ミッションを実現できているかどうかや、生徒のニーズ、希望する進路等も踏まえながらスクール・ポリシーを検討し、当該スクール・ポリシーに対応した教育を提供できるよう条件を整備していくことで、生徒が行きたいと思える学校づくり、特色化・魅力化を進め、生徒の学習意欲を高めていくことが必要

◇　小規模校は配置教職員数が限られるため、地域との協働や他校との連携を行い、生徒が地域に根差した学校で成長できるよう、コミュニティ・スクールの導入やコーディネーター等の専門的な人材配置など、体制・環境を整備していくことが必要

全日制・定時制・通信制の望ましい在り方

◇　いずれの課程でも、いつでも、どこでも、どのようにでも学ぶことが等しく認められるようにするなど、生徒の状況に応じた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現が重要

◇　全日制・定時制において、多様な生徒が現籍校での学びを継続しながら、多様な学びを実現して卒業できるよう、支援の充実、入学者選抜における適切な評価、履修・修得の柔軟な認定、通信教育の活用、学びの多様化学校の設置や校内教育支援センターの設置促進、学校間連携等の促進、ＩＣＴ活用の体制・環境整備などを考えていくことが重要

◇　通信制課程に多様な課題を抱える生徒が多く在籍していることを踏まえ、必要な支援体制を整えるとともに、生徒が人間関係を築きながら、自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働する機会を充実させていくことが重要

◇　公立通信制は生徒数が減少傾向にあるが、特に経済的な面にも課題を抱える生徒にとって重要な教育機関であり、一層の魅力向上・機能強化を図ることが必要

◆　第３期教育等の振興に関する施策の大綱及び第４期高知県教育振興基本計画
（令和６年３月 高知県・高知県教育委員会）

目指す人間像（基本理念）

◇　学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人
◇　郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人
◇　多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人

>>　目指す人間像（基本理念）を実現することで、個人が持続的に幸せを感じ、また、地域や社会もよい状態が続く「ウェルビーイング（Well-being)」の実現にもつながる

目指す人間像を実現するための基本目標

１　確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開
２　健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着
３　豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進

◆　次世代に向けた「デジタル化」「グリーン化」「グローバル化」に係る関係施策

デジタル化

◇　１人１台端末等のＩＣＴ機器を活用した個別最適・協働的な学習・指導の実現
◇　デジタル社会、Society5.0を見据えた子どもたちに必要な資質・能力の育成
◇　デジタル・ＩＣＴを活用し、多様な状況にある子どもたちに寄り添った教育・支援を展開
◇　デジタル化による業務の効率化・負担軽減等を通じて学校の「働き方改革」を推進

グリーン化

◇　学校施設の省エネルギー化、環境負荷への軽減
◇　豊かな自然資源等も生かした環境教育・体験活動の促進

グローバル化

◇　外国人児童生徒や外国にルーツを有する若者等への教育機会の確保
◇　グローバル社会で活躍できる人材を育成

◆　高知県中山間地域再興ビジョン（令和６年３月 高知県）

基本的な考え方

県土の９割を占め、県民の４割が暮らす中山間地域の再興なくして県勢浮揚はなし得ない。この考えのもと、「中山間地域再興ビジョン」において、中山間地域を再興し、人口を維持、早期反転、安定化させることで、県全体の人口構造を下支えし、もって県土の持続的な発展を目指す。そのためには、県と市町村が連携し、中山間地域の若者と子どもの人口のこれ以上の減少を食い止め、増加に転じさせることで、人口の若返りを図り、持続可能な人口構造へと転換することが何よりも重要であることから、ビジョンの目指す姿の中心に「若者の人口増加」を掲げ、少子化対策と一体となった新たな中山間対策を推進する。

10年後に目指す将来像

地域に若者が増えた持続可能な人口構造のもと、デジタル技術の活用などにより、地域で安心して生活ができる環境が維持され、地域に多様な仕事があり、誰もが将来に希望を持って暮らし続けることができる、活力ある中山間地域

10年後の数値目標

１　若者のうち、減少、流出の著しい34歳以下の人口について、中山間地域のすべての市町村で令和４年よりも増加を目指す

２　出生数について、中山間地域のすべての市町村で令和４年よりも増加を目指す

＊　中山間地域の高等学校10校における地元高校への平均進学率50％

（R5年度入学：31.3％）

２　審議経過

（１）県立高等学校の在り方検討委員会

	開催日	審議内容
令和５年度	９月 19 日	○県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方の確認 ○県立高等学校の在り方に関する検討のポイントの確認
	11 月 14 日	○現計画の取組及び現状等について ○検討ポイントの整理について
	１月 16 日	○学校の適正規模と適切配置について ○課程・学科の適切配置について ○学校の魅力化・特色化について
	２月 20 日	○学校の適正規模と適切配置について ○課程・学科の適切配置について ○学校の魅力化・特色化について ○入試制度の在り方について
令和６年度	４月 25 日	○中間とりまとめ（案） ○入試制度の在り方について
	６月 18 日	○学校の魅力化・特色化について ○入試制度の在り方について
	７月 23 日	○入試制度の在り方について ○報告書とりまとめについて
	９月 10 日	○報告書とりまとめについて

（２）県立高等学校の在り方検討委員会専門部会

	開催日	審議内容
令和５年度	１月 30 日	○現行の入試制度における課題等について
	３月 15 日	○入試制度の改善の方向性等について

３　県立高等学校の在り方検討委員会設置要綱

（設置）
第１条　県立高等学校再編振興計画（平成 26 年度策定）に続く新たな計画等を検討するにあたり、社会環境や教育環境の変化に対応した県立高等学校の在り方について検討し、教育委員会に報告することを目的として「県立高等学校の在り方検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を設置する。

（組織）
第２条　検討委員会は、委員２５名以内で組織し、委員は、高知県教育長が委嘱又は任命する。
２　検討委員会には、委員長及び副委員長を置く。
３　委員長及び副委員長は、それぞれ委員の互選によって決定する。
４　委員長は、検討委員会の会務を総括する。
５　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（任期等）
第３条　検討委員会の委員の任期は、委嘱又は任命の日から２年以内とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）
第４条　検討委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。委員長が出席できないときは副委員長が代理する。
２　会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
３　委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者に出席を求め、資料の提出、意見の表明、説明、その他の協力を求めることができる。
４　会議は公開とする。ただし、出席者の３分の２以上の多数で議決したときは、非公開とする。

（専門部会）
第５条　検討委員会は、必要に応じて専門部会を置くことができる。
２　専門部会は、委員 10 名以内で組織し、委員は、高知県教育長が委嘱又は任命する。

（庶務）
第６条　検討委員会、専門部会の庶務は、教育委員会事務局が行う。

（その他）
第７条　この要綱に定めるもののほか、検討委員会及び専門部会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この要綱は、令和５年８月 31 日から施行する。

４　県立高等学校の在り方検討委員会委員名簿

〔五十音順〕

番号	氏　名	役　職　等
1	五百藏　高浩	地元大学（高知県公立大学法人高知県立大学　副学長）
2	岡林　拓也 （第１回）	ＰＴＡ関係（高知県小中学校ＰＴＡ連合会　会長）
	仙頭　竜太 （第２回以降）	ＰＴＡ関係（高知県小中学校ＰＴＡ連合会　会長代行）
3	北　泰子	産業界（高知機型工業株式会社　取締役副社長）
4	北村　和代	産業界（高知商工会議所女性会　会長）
5	斉木　邦政	ＰＴＡ関係（高知市小中学校ＰＴＡ連合会　会長）
6	佐竹　大樹	ＰＴＡ関係（高知県高等学校ＰＴＡ連合会　会長）
7	白川　景子 （第５回まで）	市町村教育委員会関係（高知県市町村教育委員会連合会　監事）
	安岡　健二 （第６回以降）	市町村教育委員会関係（土佐市教育長）
8	二宮　真弓	地域（高知県立清水高等学校　地域連携コーディネーター）
9	八田　章光 （委員長）	地元大学（高知県公立大学法人高知工科大学　副学長）
10	藤田　勇人 （第４回まで）	高等学校関係（高知県高等学校長協会　会長）
	長岡　辰治 （第５回以降）	高等学校関係（高知県高等学校長協会　会長）
11	三谷　香 （第５回まで）	中学校関係（高知県中学校長会　副会長）
	細川　健次 （第６回以降）	中学校関係（高知県中学校長会　副会長）
12	柳林　信彦	地元大学（国立大学法人高知大学　副学長）
13	吉村　雅愛 （副委員長）	市町村教育委員会関係（高知県町村教育長会　会長）

※　役職等については、委嘱当時のものです。

５　県立高等学校の在り方検討委員会専門部会委員名簿

〔五十音順〕

番号	氏名	職名
1	足達　昇	高知県立檮原高等学校　校長
2	岩城　多加仁	高知市教育委員会　学校教育課　学力向上指導監
3	北村　晋助	高知県立高知工業高等学校　校長
4	竹村　謙	元 高知県立高知西高等学校　校長
5	森　和也	宿毛市立小筑紫中学校　校長
6	來　節子	室戸市立佐喜浜中学校　校長

６　県立高等学校の改編等の実施状況

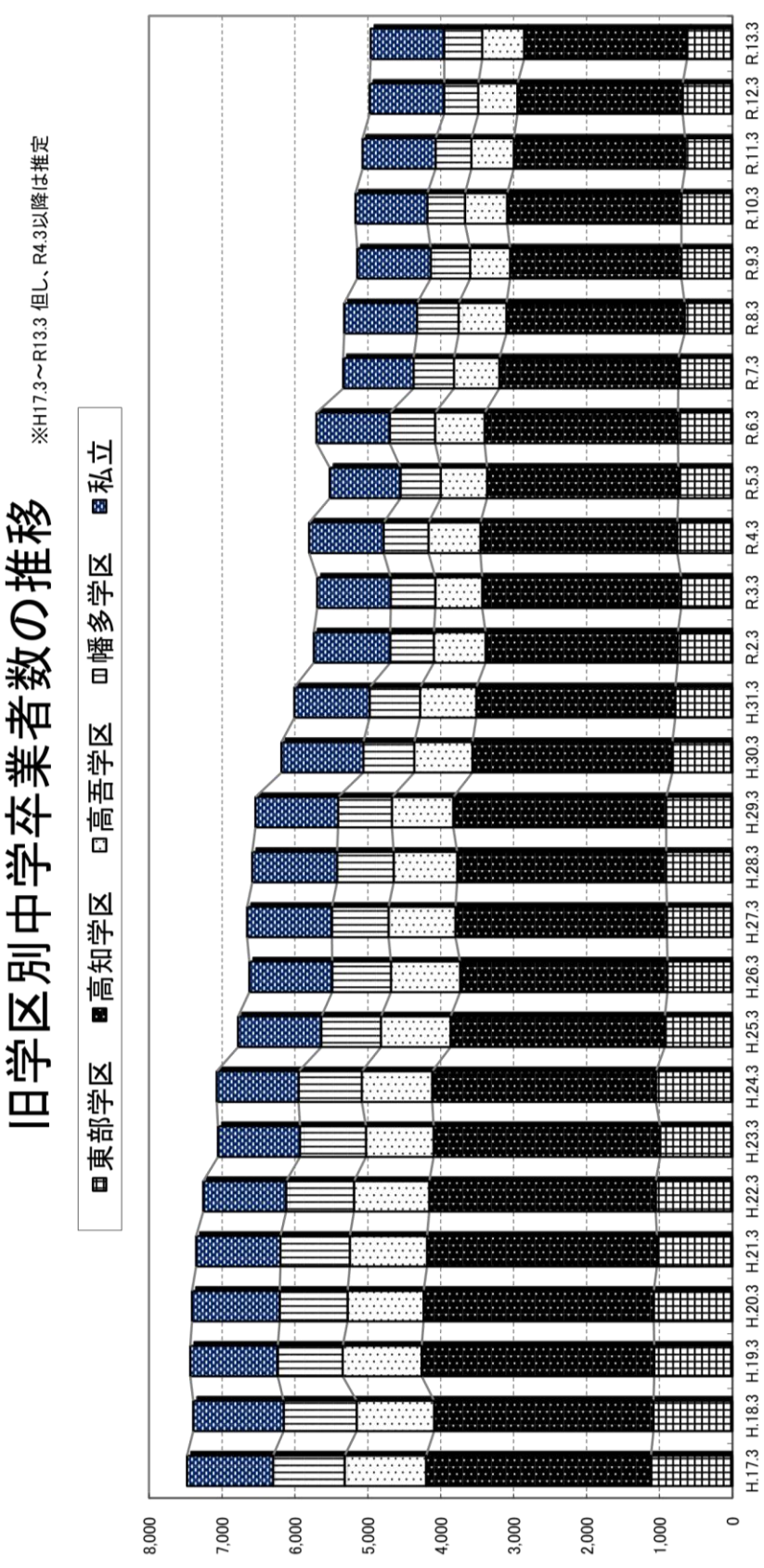
（１）県立高等学校

実施年度	学校名	改編前 課程	改編前 学科	改編前 科・コース	改編前 学級数	改編後 課程	改編後 学科	改編後 科・コース	改編後 学級数	備考
H26	高知東工業	全	工　業	理工学科	1					（募集停止）
H29	須崎工業	全	工　業	機　械　科	1	全	工　業	機械系学科（機械専攻・造船専攻）	1	学科改編
				造　船　科	1					
				電気情報科	1			電気情報系学科（電気専攻・電子情報専攻）	1	
				ユニバーサルデザイン科	1			システム工学系学科（機械制御専攻・住環境専攻）	1	
	須崎	全	総　合	総合学科	1	全	普　通	普　通　科	1	学科改編
	城山、高岡	全	普　通	普　通　科	2	全(単)	普　通	普　通　科	2	学年制を単位制に改編
	大方	定(単)	普　通	普通科（昼）	2	全(単)	普　通	普　通　科	2	課程転換
H30	安芸桜ケ丘	全	工　業	環境エネルギー科	1					（募集停止）
	高知北	定	看　護	衛生看護科	1					（閉科）
H31	須崎総合					全	工　業	機械系学科（機械専攻・造船専攻）	1	須崎と須崎工業との統合
								電気情報系学科（電気専攻・電子情報専攻）	1	
								システム工学系学科（機械制御専攻・住環境専攻）	1	
						全	普　通	普　通　科	3	
R3	山田	全	商　業	商　業　科	1	全	商　業	ビジネス探究科	1	学科改編
						全	探　究	グローバル探究科	2	新設
	高知南	全	普　通	普　通　科	5					（募集停止）
			国　際	国　際　科	1					
	高知西	全	普　通	普　通　科	6					（募集停止）
			外国語	英　語　科	1					
	高知国際					全	普　通	普　通　科	5	R5 に高知南と高知西の統合完了
							国　際	グローバル科（探究、DP コース）	2	
R4	安芸桜ケ丘	全	工　業	環境建設科	1	全	工　業	機械土木科（機械専攻、土木専攻）	1	学科改編
			商　業	情報ビジネス科	1		商　業	ビジネス科	1	
R5	安芸					全	普通	普　通　科	3	安芸と安芸桜ケ丘との統合
							工業	機械土木科（機械専攻、土木専攻）	1	
							商業	ビジネス科	1	

（２）県立中学校

実施年度	学校名	実施状況	開設時の学級規模	現在の学級規模
H14	県安芸中	新設　併設型中学校	2	2
	県高知南中	新設　併設型中学校	4	
	県中村中	新設　併設型中学校	2	2
H30	県高知国際中	新設　併設型中学校	2	3

7　旧学区別中学校卒業者数の推移

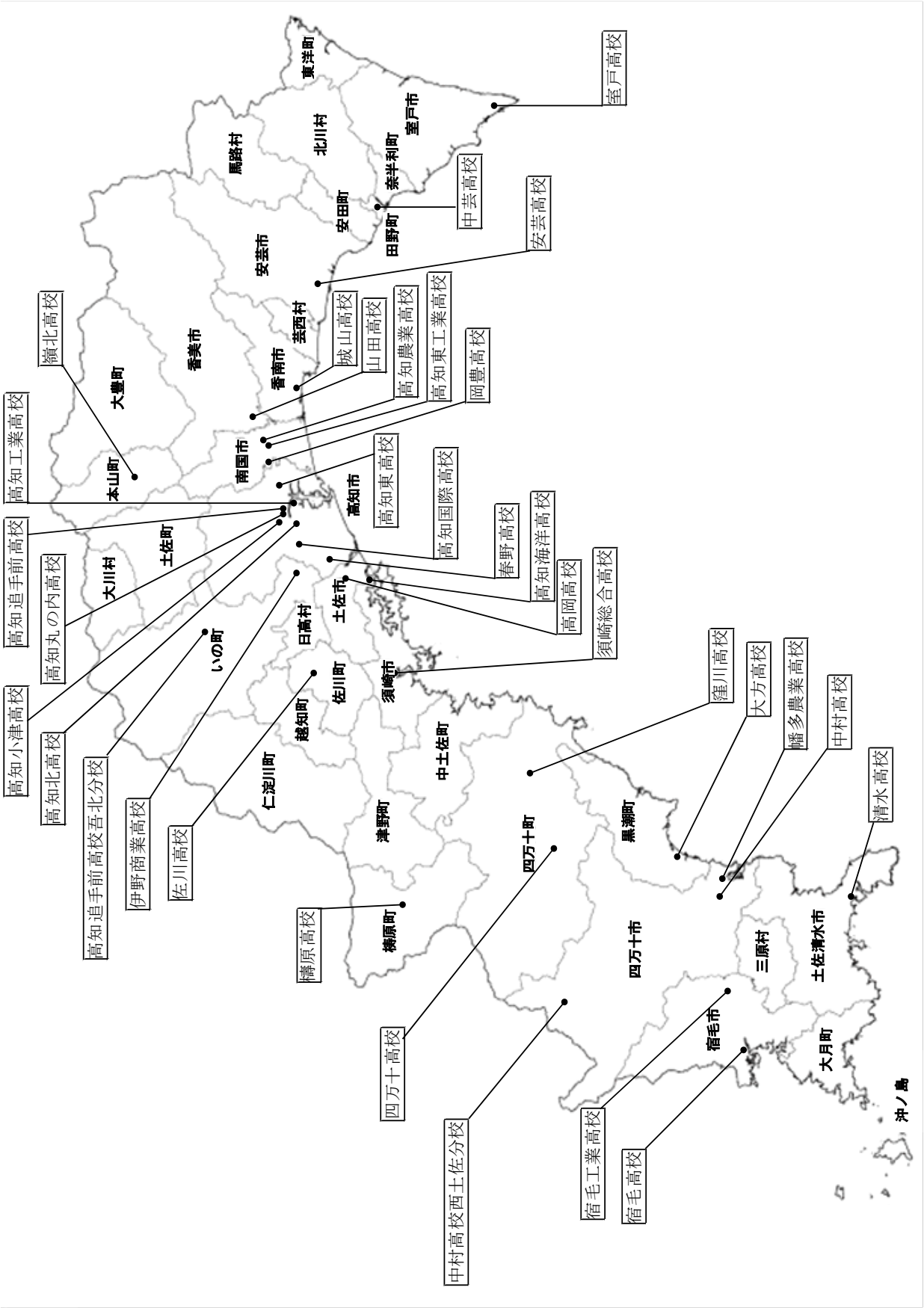


学区	H.17.3	H.18.3	H.19.3	H.20.3	H.21.3	H.22.3	H.23.3	H.24.3	H.25.3	H.26.3	H.27.3	H.28.3	H.29.3	H.30.3	H.31.3	R.2.3	R.3.3	R.4.3	R.5.3	R.6.3	R.7.3	R.8.3	R.9.3	R.10.3	R.11.3	R.12.3	R.13.3
東部学区	1,116	1,080	1,073	1,078	1,033	1,052	991	1,047	926	890	896	905	906	821	783	750	701	754	742	744	742	656	697	699	646	680	621
高知学区	3,086	3,011	3,188	3,156	3,155	3,107	3,107	3,072	2,938	2,843	2,902	2,869	2,921	2,744	2,730	2,634	2,732	2,700	2,623	2,653	2,454	2,444	2,352	2,389	2,353	2,267	2,235
高吾学区	1,117	1,062	1,084	1,045	1,058	1,032	929	965	958	950	917	870	842	797	770	711	640	715	635	682	621	656	547	580	582	539	575
幡多学区	982	1,003	891	931	953	930	903	865	817	806	777	778	739	701	693	597	614	616	551	622	556	571	543	516	491	466	521
私立	1,180	1,239	1,200	1,204	1,158	1,136	1,127	1,123	1,142	1,137	1,166	1,163	1,135	1,121	1,032	1,051	1,008	1,022	971	1,003	965	999	1,006	987	1,002	1,024	1,009
合計	7,481	7,395	7,436	7,414	7,357	7,257	7,057	7,072	6,781	6,626	6,658	6,585	6,543	6,184	6,008	5,743	5,695	5,807	5,522	5,704	5,338	5,326	5,145	5,171	5,074	4,976	4,961

※H18までは旧市町村での学区
※日高村は高吾学区に含まれている
※R4.3の卒業者数は、前年度5/1現在の中３の生徒数としている。

	R.5.3	R.6.3	R.7.3	R.8.3	R.9.3	R.10.3	R.11.3	R.12.3	R.13.3
R4.3卒業生比	▲ 285	▲ 103	▲ 469	▲ 481	▲ 662	▲ 636	▲ 733	▲ 831	▲ 846
前年度比	112 ▲ 285	182 ▲ 366	▲ 12	▲ 181	26	▲ 97	▲ 98	▲ 15	

8　令和５年度県立高等学校配置図



９　令和５年度県立高等学校募集学級数別学校一覧

（１）全日制

	学科	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	計
東部地域	普通・工業・商業					安芸				2校 7学級
	総合		室戸							
中部地域	普通		城山					高知 追手前	岡豊	15校 76学級
			高岡							
	普通・理数							高知 小津		
	普通・国際							高知 国際		
	普通・音楽					高知 丸の内				
	普通・探究・商業					山田				
	農業						高知 農業			
	工業				高知東 工業			高知 工業		
	商業				伊野 商業					
	水産		高知 海洋							
	総合				春野					
	総合・看護						高知東			
北部地域	普通	吾北 分校	嶺北							2校 3学級
高吾地域	普通		佐川							5校 14学級
			窪川							
			檮原							
			四万十							
	普通・工業						須崎 総合			
幡多地域	普通	西土佐 分校	清水			中村				7校 21学級
			大方							
	農業				幡多 農業					
	工業				宿毛 工業					
	総合			宿毛						
計		2校	11校	1校	5校	4校	3校	4校	1校	31校
規模別学校割合		6.5%	35.5%	3.2%	16.1%	12.9%	9.7%	12.9%	3.2%	

（２）定時制及び多部制単位制

	学科	1学級	2学級	3学級	4学級	計
東部地域	普通	室戸、 中芸（昼・夜）				2校・3学級
中部地域	普通	山田、高知北（夜）、 高岡	高知北（昼）			5校・10学級
	工業	高知東工業			高知工業	
高吾地域	普通	須崎総合、佐川				2校・2学級
幡多地域	普通	大方、宿毛、清水				3校・3学級
計						12校

（３）通信制

◎高知北高校（1学年募集定員200人）　　◎大方高校（1学年募集定員100人）

10　令和５年度県立高等学校の学科及びコース一覧

（１）全日制

学科＼地域	東部地域			中部地域			北部地域			高吾地域			幡多地域		
	学校名	科・コース	入学定員に対する１学年学級数	学校名	科・コース	入学定員に対する１学年学級数	学校名	科・コース	入学定員に対する１学年学級数	学校名	科・コース	入学定員に対する１学年学級数	学校名	科・コース	入学定員に対する１学年学級数
普通科	安芸	普通科	3	城山	普通科	2	嶺北	普通科	2	佐川	普通科	2	大方	普通科	2
				山田	普通科	2	吾北分	普通科	1	須崎総合	普通科	3	中村	普通科	5
				岡豊	普通科	6				窪川	普通科	2	西土佐分	普通科	1
				高知追手前	普通科	7				檮原	普通科	2	清水	普通科	2
				高知丸の内	普通科	4				四万十	普通科	1			
				高知小津	普通科	6									
				高知国際	普通科	5									
				高岡	普通科	2									
普通科系専門学科				山田	グローバル探究科	2									
				高知丸の内	音楽科	1									
				高知小津	理数科	1									
				高知国際	グローバル科	2									
普通科（コース）				岡豊	体育コース	1				四万十	自然環境コース	1			
					芸術コース	1									
農業に関する学科　作物・園芸系				高知農業	農業総合科	1							幡多農業	園芸システム科	1
													幡多農業	アグリサイエンス科	1
畜産系				高知農業	畜産総合科	1									
林業系				高知農業	森林総合科	1							幡多農業	グリーン環境科	1
生活系				高知農業	生活総合科	1							幡多農業	生活コーディネート科	1
食品系				高知農業	食品ビジネス科	1									
土木系				高知農業	環境土木科	1									
工業に関する学科　制御系				高知東工業	電子機械科	1				須崎総合	システム工学系学科	1			
建設系	安芸	機械土木科	1	高知工業	建築科	1							宿毛工業	建設科	1
					土木科	1									
機械系				高知東工業	機械科	1							宿毛工業	機械科	1
					機械生産システム科	1									
				高知工業	機械科	1				須崎総合	機械系学科	1			
造船系															
情報系				高知工業	情報技術科	1							宿毛工業	情報技術科	1
化学系				高知工業	工業化学科	1									
電気系				高知東工業	電子科	1				須崎総合	電気情報系学科	1	宿毛工業	電気科	1
				高知工業	電気科	1									
デザイン系				高知工業	総合デザイン科	1									
商業に関する学科	安芸	ビジネス科	1	山田	ビジネス探究科	1									
				伊野商業	キャリアビジネス科	4									
水産に関する学科				高知海洋	海洋学科	2									
看護に関する学科				高知東	看護科	1									
総合学科	室戸	総合学科	2	高知東	総合学科	5							宿毛	総合学科	3
				春野	総合学科	4									

（２）多部制単位制・定時制・通信制課程

地域	東部地域		中部地域		北部地域		高吾地域		幡多地域	
	学校名	科・コース	学校名	科・コース	学校名	科・コース	学校名	科・コース	学校名	科・コース
多部制単位制	中芸	普通科（昼間部）	高知北	普通科（昼間部）						
		普通科（夜間部）		普通科（夜間部）						
定時制（夜間）	室戸	普通科	山田	普通科			須崎総合	普通科	大方	普通科
			高岡	普通科			佐川	普通科	宿毛	普通科
			高知東工業	機械科					清水	普通科
			高知工業	機械科						
				電気科						
				土木科						
				建築科						
通信制			高知北	普通科					大方	普通科

11　令和５年度県立高等学校の生徒数（５月１日現在）

（１）全日制

校　名	本分	科　別	１　年	２　年	３　年	合　計	総　計
室戸	本	総合	49	33	22	104	104
安芸	本	普通	95	74	72	241	
	本	機械土木	10	15		25	
	本	環境建設			12	12	
	本	ﾋﾞｼﾞﾈｽ	20	16		36	
	本	情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ			12	12	326
城山	本	普通	25	20	25	70	70
山田	本	普通	61	70	55	186	
	本	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ探究	9	11	16	36	
	本	ﾋﾞｼﾞﾈｽ探究	27	30	26	83	305
嶺北	本	普通	27	40	28	95	95
高知農業	本	農業総合	38	35	34	107	
	本	畜産総合	30	18	22	70	
	本	森林総合	14	16	17	47	
	本	環境土木	19	21	17	57	
	本	食品ﾋﾞｼﾞﾈｽ	40	28	30	98	
	本	生活総合	38	36	32	106	485
高知東工業	本	機械	40	28	26	94	
	本	機械生産ｼｽﾃﾑ	12	12	20	44	
	本	電子	18	25	18	61	
	本	電子機械	20	18	16	54	253
岡豊	本	普通	277	303	293	873	873
高知東	本	総合	200	194	188	582	
	本	看護	30	31	25	86	668
高知工業	本	機械	39	37	40	116	
	本	電気	40	40	38	118	
	本	情報技術	36	40	40	116	
	本	工業化学	40	33	39	112	
	本	土木	40	39	40	119	
	本	建築	40	40	39	119	
	本	総合ﾃﾞｻﾞｲﾝ	41	38	39	118	818
高知追手前	本	普通	234	227	240	701	
吾北	分	普通	11	12	7	30	731
高知丸の内	本	普通	147	143	142	432	
	本	音楽	12	15	17	44	476
高知小津	本	普通	228	239	239	706	
	本	理数	25	39	33	97	803
高知国際	本	普通	201	198	196	595	
	本	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ	75	67	72	214	809
伊野商業	本	ｷｬﾘｱﾋﾞｼﾞﾈｽ	109	100	96	305	305
春野	本	総合	132	139	116	387	387
高岡	本	普通	23	29	32	84	84
高知海洋	本	海洋	30	33	30	93	93
須崎総合	本	普通	75	57	80	212	
	本	機械系	26	21	24	71	
	本	電気情報系	8	14	10	32	
	本	ｼｽﾃﾑ工学系	16	12	9	37	352
佐川	本	普通	37	43	30	110	110
窪川	本	普通	22	36	24	82	82

校　名	本分	科　別	1　年	2　年	3　年	合　計	総　計
檮原	本	普通	42	39	39	120	120
四万十	本	普通	25	22	20	67	67
大方	本	普通	36	22	33	91	91
幡多農業	本	園芸ｼｽﾃﾑ	18	26	33	77	
	本	ｱｸﾞﾘｻｲｴﾝｽ	15	17	25	57	
	本	ｸﾞﾘｰﾝ環境	15	8	18	41	
	本	生活ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ	22	21	27	70	245
中村	本	普通	168	153	150	471	
西土佐	分	普通	8	7	6	21	492
宿毛工業	本	機械	21	22	17	60	
	本	建設	35	35	41	111	
	本	電気	6	9	13	28	
	本	情報技術	27	40	37	104	303
宿毛	本	総合	62	74	50	186	186
清水	本	普通	22	48	26	96	96
小　計			3,308	3,308	3,213	9,829	9,829

（２）定時制

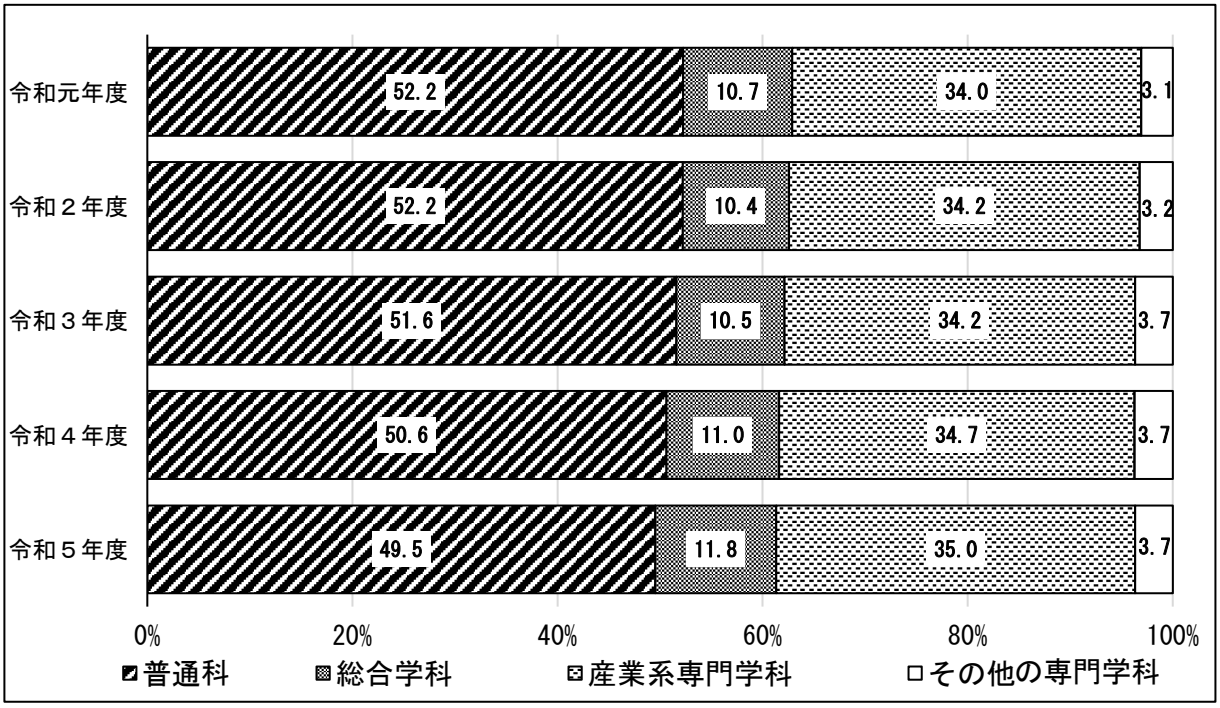
校　名	本分	科　別	1　年	2　年	3　年	4　年	合　計	総　計
室戸	本	普通	3	0	5	0	8	8
中芸	本	普通（昼）	9	14	12	0	35	
	本	普通（夜）	6	4	5	5	20	55
山田	本	普通	6	6	8	2	22	22
高知東工業	本	機械	3	4	2	3	12	12
高知工業	本	機械	1	2	2	4	9	
	本	電気	2	2	6	10	20	
	本	土木	4	2	4	1	11	
	本	建築	0	2	6	8	16	56
高知北	本	普通（昼）	50	62	45	6	163	
	本	普通（夜）	12	11	9	8	40	203
高岡	本	普通	6	2	3	5	16	16
須崎総合	本	普通	5	5	5	4	19	19
佐川	本	普通	5	4	3	5	17	17
大方	本	普通	3	4	4	2	13	13
宿毛	本	普通	4	2	3	3	12	12
清水	本	普通	1	5	1	1	8	8
小　計			120	131	123	67	441	441

（３）通信制

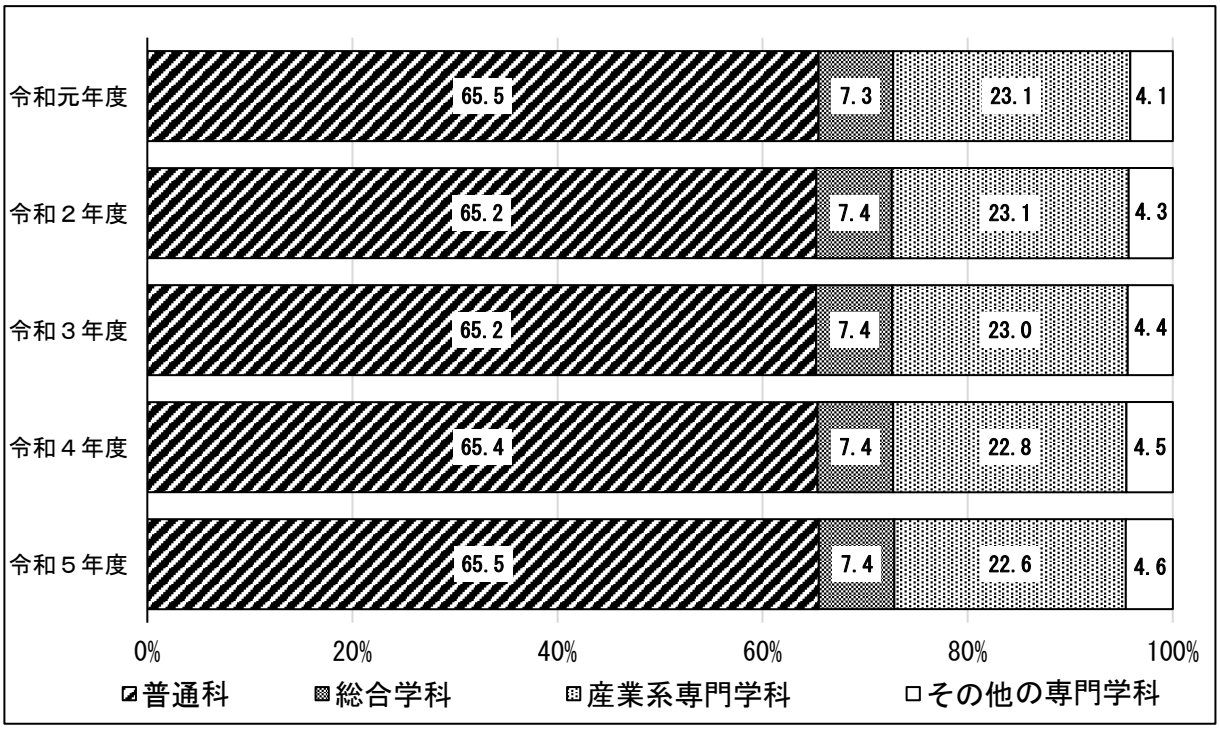
校　名	本分	科　別	一　般	併　修	合　計	総　計
高知北	本	普通	305	5	310	310
大方	本	普通	77	1	78	78
総合計			382	6	388	388

12　公立高等学校（全日制課程）の学科別（本科）生徒数の比率

（１）高知県



（２）全国

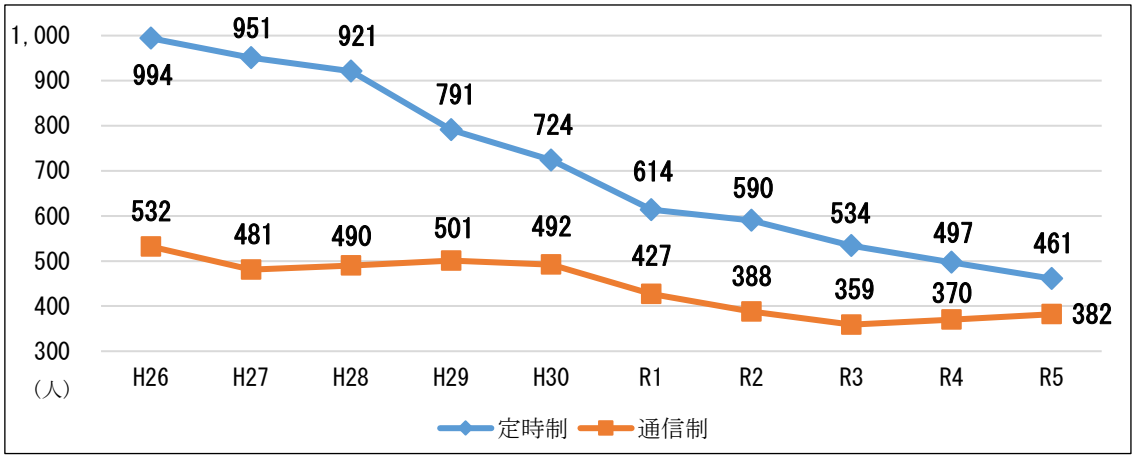


※文部科学省「学校基本調査」による。

13　公立高等学校定時制・通信制の状況

（１）定時制・通信制生徒数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
定時制	994	951	921	791	724	614	590	534	497	461
通信制	532	481	490	501	492	427	388	359	370	382
合計	1,526	1,432	1,411	1,292	1,216	1,041	978	893	867	843



※高知県教育委員会事務局高等学校課の「高知県公立高等学校定時制・通信制教育調査資料」による。

（２）定時制生徒の就労状況（年度別）

	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
定時制全体	生徒数合計	994	951	921	791	724	614	590	534	497	461
	就労している割合（生徒数）	31.9%（317）	33.3%（317）	34.5%（318）	38.6%（305）	39.4%（285）	37.5%（230）	32.5%（192）	29.6%（158）	29.0%（144）	29.3%（135）
	就労していない割合（生徒数）	68.1%（677）	66.7%（634）	65.5%（603）	60.8%（481）	60.5%（438）	62.4%（383）	67.3%（397）	70.2%（375）	71.0%（353）	70.5%（325）
定時制夜間	生徒数合計	561	524	505	450	404	332	320	270	259	263
	就労している割合（生徒数）	56.5%（317）	60.5%（317）	63.0%（318）	67.8%（305）	70.5%（285）	69.3%（230）	60.0%（192）	58.5%（158）	55.6%（144）	51.3%（135）
	就労していない割合（生徒数）	43.5%（244）	39.5%（207）	37.0%（187）	31.1%（140）	29.2%（118）	30.4%（101）	39.7%（127）	41.1%（111）	44.4%（115）	48.3%（127）
					不明５名	不明１名	不明１名	不明１名	不明１名		不明１名

※１定時制昼間部の生徒は全て無職業者としている。※２合計が 100%にならないのは不明者がいるため。
※３高知県教育委員会事務局高等学校課の「高知県公立高等学校定時制・通信制教育調査資料」による。

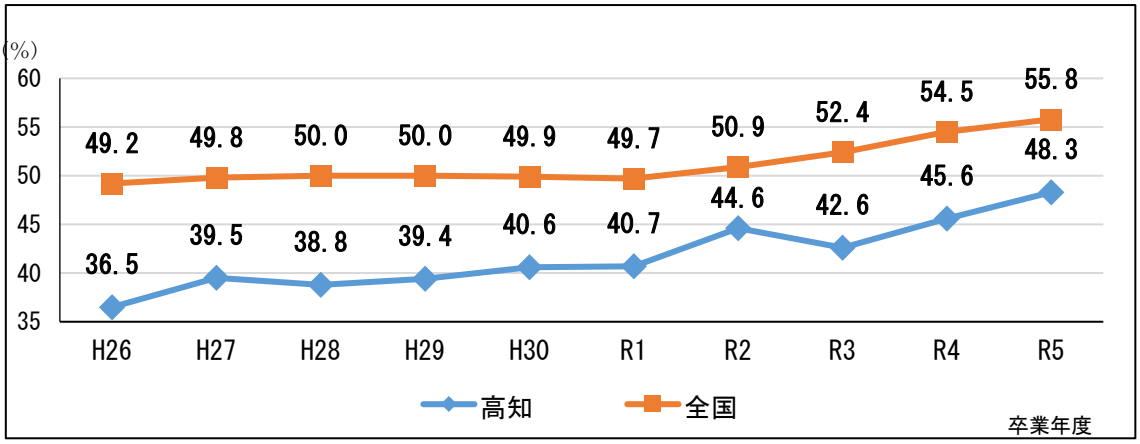
（３）高等学校通信制課程の年度別卒業者・進学者数・進学率

年　　度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	過去５年（H30～R4）平均(%)
卒業者数	125	104	77	88	91	94	104	99	84	
進学者数	28	18	14	19	18	17	31	31	21	
進 学 率	22.4%	17.3%	18.2%	21.6%	19.8%	18.1%	29.8%	31.3%	25.0%	24.8%

※１　４年制大学、短期大学、その他専門学校を含む。
※２　高知県教育委員会事務局高等学校課の「高知県公立高等学校定時制・通信制教育調査資料」による。

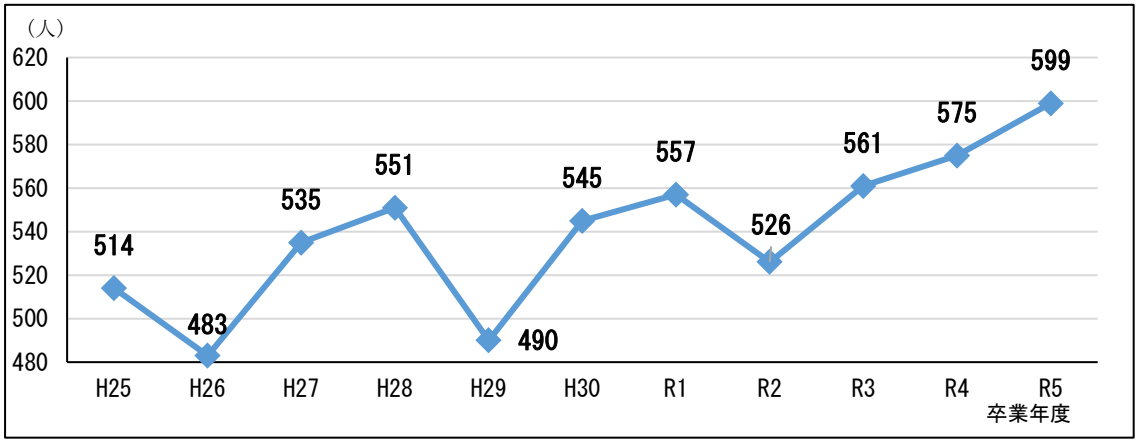
14　高等学校における進路の状況

（１）高等学校卒業後の大学等進学



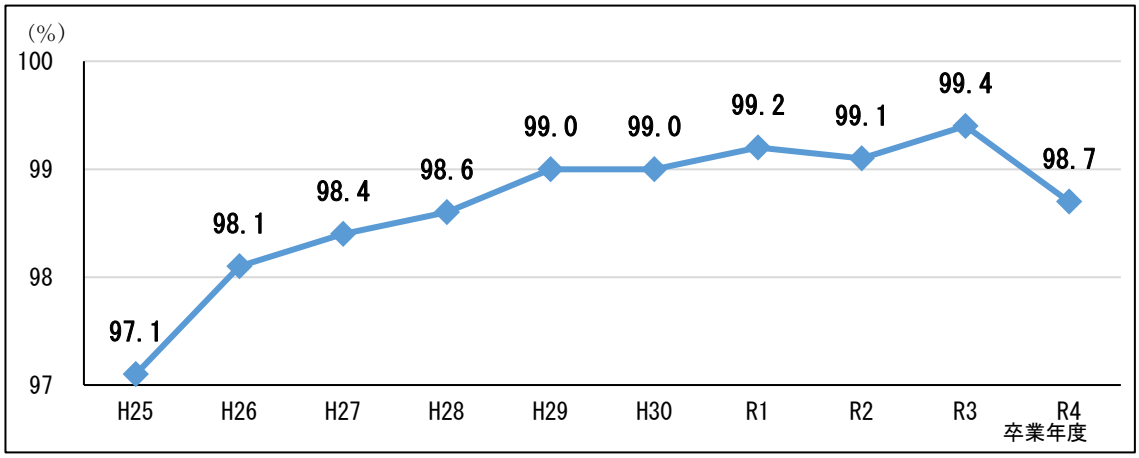
※文部科学省「学校基本調査」による。（公立及び私立を含む）

（２）高知県の公立高等学校の国公立大学進学者数推移



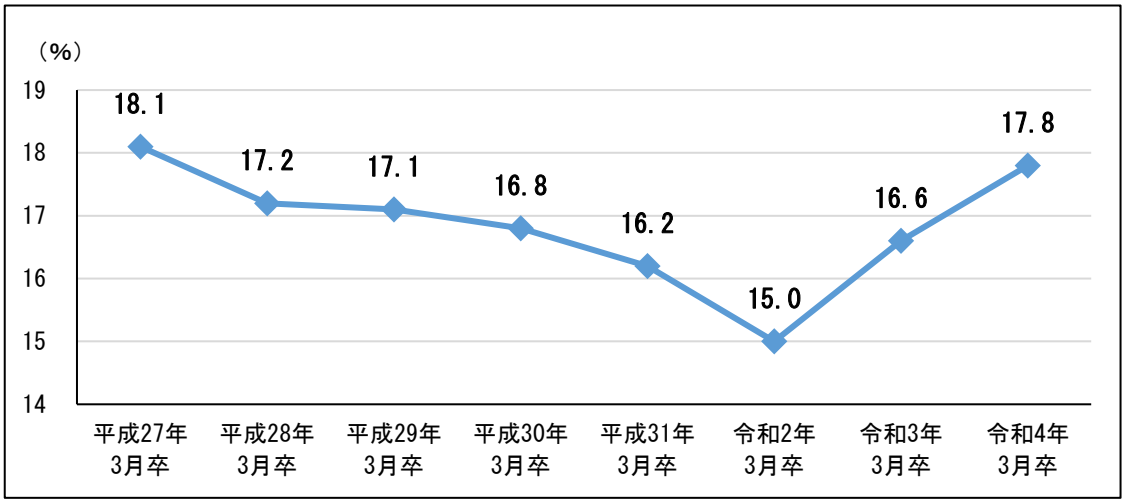
※高知県進学協議会のデータによる。

（３）高知県の就職内定率（全日制・定時制）の推移



※高知県の数値は、高知県就職対策連絡協議会のデータによる。

（４）新規高等学校卒業者の１年目の離職率の推移



※厚生労働省「新規学卒者の離職状況」による。

15　県立高等学校の在り方についてのアンケート結果

１　調査の概要

（１）　実施時期：令和５年７月

（２）　調査対象

① 県内の市町村（学校組合）立中学校生徒（１～３年生）と中学校３年生の保護者

② 県内の県立中学校生徒（１～３年生）と中学校３年生の保護者

③ 県内の県立高等学校生徒（全課程）と高校生（全日制・定時制昼間部の１・２年生）の保護者

④ 県内の市町村（学校組合）立中学校の校長及び県立中学校・高等学校の校長

（３）　調査方法：中学生、高校生及び校長は Google フォームを用いて回答
保護者は Google フォームまたはアンケート用紙にて回答

２　アンケート回答状況

校　種	対　　象		対象者数（人）	回答数（人）	回答率（%）
県立・市町村立中学校・義務教育学校	校長	全員	96	84	87.5
	生徒	全学年	13,026	10,384	79.7
		１年生	4,219	3,339	79.1
		２年生	4,232	3,387	80.0
		３年生	4,575	3,658	80.0
	保護者	３年のみ	4,483	1,238	27.6
県立高等学校	校長	全員	31	31	100.0
	生徒	全学年(全・定・通)	10,877	8,240	75.8
		１年生	3,502	2,754	78.6
		２年生	3,533	2,848	80.6
		３年生	3,381	2,576	76.2
		４年生	73	33	45.2
		通信制課程	388	29	7.5
	保護者	全日制・定時制昼間部の１・２年	6,616	2,126	32.1

３　アンケートの設問

(1)県立・市町村立中学校・義務教育学校	(2)県立高等学校
・中学校卒業後の進路 ・進学先までの通学可能と考える時間 ・進学する高校等を選択する際に参考にしているもの ・進学する高校等を選択する際に重視すること ・高校入試の際に学力検査以外で評価してほしいこと ・高校等で特に身に付けたい力 ・高校等で特に何を学びたいか ・高校卒業後の進路 ・将来どこで働くことを希望しているか ・将来どのような仕事に就きたいか ・どのくらいの大きさの学校で学びたいか（学級規模）	・高校までの通学可能と考える時間 ・進学する高校を選択する際に参考にしたもの ・進学する高校を選択する際に重視したこと ・高校入試の際に学力検査以外で評価してほしいこと ・授業や学習へのサポート体制の満足度 ・学校行事への満足度 ・授業や学校行事以外の活動（部活動等）でやりたいことができているか ・高校で特に身に付けたい力 ・現在学んでいる授業以外に学習したいこと ・高校卒業後の進路 ・将来どこで働くことを希望しているか ・将来どのような仕事に就きたいか

４　アンケート結果（抜粋）

問　あなたは中学校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを**１つ**選んでください。なお、働きながら高校に進学することを希望している人は、希望する高校を選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

	中学生
1　公立の全日制（昼間部）の高校	48.8
2　公立の定時制（夜間部）の高校	0.7
3　公立の通信制の高校	1.4
4　私立の高校	6.6
5　高等専門学校	4.4
6　その他	2.0
7　未定（まだ考えていない）	36.2

問　あなたは、（お子様の）進学先（高校等）までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から**１つ**選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

	中学生	中学生保護者	高校生	高校生保護者
1　30 分未満	20.6	28.6	39.9	37.4
2　30 分～１時間未満	40.9	56.7	41.2	49.0
3　１時間～１時間 30 分未満	13.1	10.1	12.3	10.3
4　１時間 30 分～２時間未満	3.1	1.3	2.7	1.9
5　２時間以上	0.8	0.2	0.4	0.1
6　通学時間は特に気にしない	21.6	3.1	3.5	1.3

問　あなたが（お子様が）進学する高校等を選ぶとき、参考にしている（したい）（した）ものは何ですか。次の中から**２つ**まで選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

	中学生	中学生保護者	高校生	高校生保護者
1　高校の体験入学	28.4	21.8	27.3	24.2
2　高校の先生による学校説明会	15.8	14.9	10.7	10.3
3　高校の学校案内（パンフレットなど）	8.9	6.8	16.1	8.3
4　「こうちハイスクールガイド」	0.7	0.1	0.8	0.2
5　高校の公式ホームページや公式 SNS	4.7	4.5	2.9	2.4
6　中学校の先生による説明	5.5	6.4	9.2	7.0
7　塾の先生の説明	2.1	1.5	1.8	1.3
8　家族の意見（子どもの意見）	19.3	36.0	16.0	37.1
9　友達や先輩の意見（知人の意見）	11.5	6.2	10.8	4.5

10	新聞やテレビの情報	1.0	0.4	0.5	0.2
11	その他	2.1	1.4	4.0	4.5

問　あなた（お子様）が進学する高校等を選ぶとき、重視した（する）ことは何ですか。次の中から**２つ**まで選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

		中学生	中学生保護者	高校生	高校生保護者
1	学科やコースの内容	23.4	30.6	26.2	25.0
2	進学や就職の実績	18.2	27.0	20.0	23.5
3	学校行事の状況	8.3	1.2	5.9	1.3
4	部活動の状況	15.6	7.2	9.7	8.1
5	高校の伝統や印象	4.6	4.3	3.7	7.0
6	少人数での教育	1.0	1.5	3.2	2.7
7	高校と地域との連携	0.5	0.4	0.9	0.8
8	学校周辺の環境	3.5	2.9	3.2	2.3
9	施設や設備の充実	5.6	2.6	3.3	1.6
10	通学のしやすさ	10.4	15.3	14.8	17.8
11	資格取得への対応状況	3.6	4.8	4.4	4.0
12	制服	5.2	0.7	2.9	2.4
13	市町村などからの進学支援		1.4		0.9
14	その他			1.8	2.5

問　高校入試のときに、学力検査以外で、（お子様の）どのようなことを（どのようなところが）評価してほしい（されるとよい）と思いますか。次の中から**２つ**まで選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

		中学生	中学生保護者	高校生	高校生保護者
1	その高校や学科・コースに進学したい理由	10.8	11.6	26.2	15.8
2	高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと	11.4	16.9	20.0	17.4
3	進みたい学科・コースに関する知識や技術	4.1	1.7	5.9	2.8
4	高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと	6.6	4.2	9.7	5.9
5	中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと	7.3	7.1	3.7	5.1
6	中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと	1.8	3.7	3.2	2.7
7	中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと	4.1	6.1	0.9	3.4
8	中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと	10.1	14.4	3.2	9.0
9	中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと	6.2	11.9	3.3	11.7
10	学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと	2.5	2.4	14.8	2.7

11　得意なことや好きなこと	19.3	9.9	4.4	10.6
12　将来の夢や目標	15.5	9.6	2.9	12.6
13　その他	0.4	0.6	1.8	0.5

問　授業や学習へのサポート体制には満足していますか。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

	高校生
1　大変満足している	24.8
2　まあまあ満足している	53.1
3　どちらでもない	16.7
4　あまり満足していない	3.8
5　不満である	1.6

問　学校行事には満足していますか。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

	高校生
1　大変満足している	33.3
2　まあまあ満足している	45.3
3　どちらでもない	14.2
4　あまり満足していない	5.2
5　不満である	2.0

問　授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができていますか。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

	高校生
1　かなりできている	27.4
2　だいたいできている	43.3
3　どちらでもない	17.1
4　あまりできていない	4.6
5　全くできていない	0.9
6　活動はしていない	6.6

問　あなたが（お子様に）高校等で特に身に付けたい（身に付けてもらいたい）力は何ですか。次の中から**２つ**まで選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

		中学生	中学生保護者	高校生	高校生保護者
1	基礎的・基本的な知識や技能	21.8	14.0	23.1	13.8
2	大学等への進学に必要な学力	12.4	9.5	20.8	13.1

3	就職に必要な知識・技能やビジネスマナー	11.0	6.4	8.7	5.5
4	一般常識や社会常識	6.3	11.0	8.2	11.1
5	ICT や情報などを活用する力	2.9	1.7	2.0	1.8
6	課題を見つけて解決していく力	3.8	10.1	3.7	8.7
7	考えたことを表現する力	5.0	7.0	4.7	6.0
8	スポーツや芸術の知識や技能	9.5	1.5	4.1	1.1
9	良好な人間関係を築く力	9.6	9.3	8.4	10.5
10	様々な環境に適応する力	3.4	12.2	3.7	12.4
11	自己を理解し管理する力	3.3	5.0	4.4	5.2
12	規則正しい生活習慣	2.8	1.5	2.2	1.2
13	地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度	1.5	1.0	1.2	0.8
14	新しいことや困難なことにチャレンジする行動力	6.6	9.7	4.9	9.0

問　現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次の中から**２つ**まで選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

		高校生
1	アート・デザイン系	10.0
2	音楽系	8.4
3	体育・スポーツ系	11.8
4	家庭系（調理・被服など）	5.9
5	農業系	2.3
6	工業系	4.2
7	AI・ICT・デジタル系	10.5
8	商業系	5.6
9	水産系	0.9
10	医療・看護系	8.1
11	福祉系	4.4
12	保育・教育系	6.7
13	その他	4.1
14	現状に満足している	6.5
15	特にない	10.6

問　あなたは高校等で特に何を学びたいですか。次の中から**２つ**まで選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

		中学生
1	人文学系（国語、英語、地理、歴史など）	14.8
2	社会科学系（政治、経済、法律など）	6.4

3	自然科学系（理科、数学など）	13.7
4	国際系（実践的な語学、国際関係など）	3.8
5	アート・デザイン系	7.7
6	音楽系	4.5
7	体育・スポーツ系	14.6
8	家庭系（調理・被服など）	3.9
9	農業系	2.6
10	工業系	5.3
11	AI・ICT・デジタル系	5.8
12	商業系	3.1
13	水産系	0.7
14	医療・看護系	4.8
15	福祉系	0.9
16	保育・教育系	4.1
17	その他（上記の 01～16 にないもの）	3.3

問　あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを**1つ**選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

		中学生	高校生
1	大学	32.0	47.3
2	短期大学	2.9	3.6
3	専門学校	13.4	20.0
4	就職	12.2	17.0
5	すでに働いている		0.2
6	その他	1.3	1.1
7	未定（まだ考えていない）	38.3	10.8

問　あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを**1つ**選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

		中学生	高校生
1	地元（あなたの出身地やその周辺）	6.4	6.5
2	高知県内	21.8	29.9
3	高知県外	26.2	34.2
4	海外	3.0	2.1
5	未定（まだ考えていない）	42.5	27.3

問　あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを**１つ**選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

		中学生	高校生
1	農林漁業、動植物、環境などに関する仕事（自然に関すること）	6.3	4.4
2	機械、電気、化学、ICT などに関する仕事（科学技術・ものづくり）	9.8	11.8
3	デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事（アート・表現）	13.7	9.5
4	スポーツ選手、インストラクターなど（スポーツに関すること）	10.6	3.3
5	観光、ブライダル、車・電車の運転などに関する仕事（旅・思い出・乗り物）	2.0	3.0
6	理美容師、ファッションデザイナーなど（ファッション・ビューティー）	6.3	4.2
7	調理師、栄養士、食品の製造・開発などに関する仕事（飲食・調理）	4.1	5.1
8	建築、道路工事、インテリアなどに関する仕事（住まい・街づくり）	3.9	4.1
9	医師、看護師、介護士、理学療法士など（医療・福祉）	10.4	15.7
10	教員、保育士、図書館の司書、塾の講師など（教育）	8.1	10.8
11	公務員、弁護士、翻訳者など（行政・法律・国際関係）	8.2	11.9
12	銀行、不動産、接客、販売などに関する仕事（金融・ビジネス）	2.6	4.6
13	その他	13.9	11.6

問　あなたは、（お子様に）どのくらいの大きさの学校（規模の学校）で学びたいですか（学んでほしいと思っていますか）。（県立の高校の）１学年当たりの学級数（人数）を、次の中から**１つ**選んでください。

＜回答者別の各項目を選んだ割合（%）＞

		中学生	中学生保護者
1	１学級（40 人以下）	22.5	15.8
2	２～３学級（41 人～120 人）	35.8	33.6
3	４～５学級（121 人～200 人）	30.2	38.5
4	６～７学級（201 人～280 人）	7.1	10.2
5	８学級以上（281 人以上）	4.5	1.9